# 秋田県文化財調査報告書第401集

# 遺跡詳細分布調査報告書

2005 • 3

秋田県教育委員会

# 遺跡詳細分布調査報告書

2005 • 3

秋田県教育委員会

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできない貴重なものであります。

一方、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎となるものです。

本報告書は、平成16年度に国庫補助事業として実施した県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業などに係る遺跡分布調査及び遺跡確認調査の結果をまとめたものです。

報告書をまとめるにあたり、調査に御協力いただきました関係各機関に 感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解 下さいますよう、お願い申し上げます。

平成17年3月

秋田県教育委員会 教育長 小野寺 清

- 1 本報告書は、平成16年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡 確認調査の報告書である。なお本書収録の報告は平成16年4月から同12月までの実施分であり、平 成17年1月以降については来年度に報告する予定である。また、平成16年1月から3月に実施した 遺跡分布調査の結果報告を平成15年度補足分として掲載した。
- 2 本報告書に収録の遺跡分布調査、遺跡確認調査は主に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。
- 3 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の50,000分の1及び25,000分の1地形図と、日本道路公団、国土交通省、県建設交通部、県農林水産部、県教育庁が作成した平面図である。
- 4 市町村名及び境界は、便宜上、合併以前(平成16年10月時点)の状態で示している。

# 目 次

序		(19)	ほ場整備関連調整事業 川西六郷線…22
例言		(20)	特定交通安全施設等整備事業
目次			国道107号 22
第1章	重 はじめに1	(21)	河川総合開発事業 砂子沢ダム23
第2章	<b>萱</b> 実施要項1	(22)	県営ほ場整備事業 鯉川地区24
第1	節 遺跡分布調査1	(23)	県営ほ場整備事業 若美北部地区24
第2	2節 遺跡確認調査4	(24)	県営ほ場整備事業 大沢地区25
第3章	€ 調査の記録6	(25)	県営ほ場整備事業 女米木地区26
第1	節 遺跡分布調査6	(26)	県営ほ場整備事業 新波地区26
1 平	<sup>z</sup> 成15年度補足分6	(27)	県営ほ場整備事業 種沢地区27
(1)	日本海沿岸東北自動車道建設事業	(28)	県営ほ場整備事業 白岩第一地区28
	本荘岩城間6	(29)	県営ほ場整備事業 小種地区28
(2)	日本海沿岸東北自動車道建設事業	(30)	県営ほ場整備事業 中仙南部地区29
	大館小坂間7	(31)	県営ほ場整備事業 及水地区30
(3)	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業…8	(32)	県営ほ場整備事業 鍋倉地区30
(4)	国道105号国道道路改築事業	(33)	ふるさと農道整備事業 北川尻地区…31
	岩谷道路9	(34)	ふるさと農道整備事業 清水地区3
(5)	県営ほ場整備事業 若美北部地区10	(35)	ふるさと林道緊急整備事業 花矢線…32
(6)	県営ほ場整備事業 女米木地区10	(36)	流域循環資源林整備事業 母谷山線…32
(7)	県営ほ場整備事業 中仙南部地区11	(37)	流域循環資源林整備事業 前沢線33
(8)	県営農免農道整備事業 奥羽南部地区…12	(38)	フォレストコミュニティ総合整備事業
			峰浜線33
2 <del>4</del>	<sup>7</sup> 成16年度分······13	(39)	フォレストコミュニティ総合整備事業
	一般国道13号河辺拡幅事業13		米代線34
	荒町地区河川防災ステーション	(40)	流域公益保全林整備事業
	建設事業13		西ノ沢小滝線35
(3)	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業…13	(41)	流域公益保全林整備事業 もりよし線…35
(4)	一般国道46号角館バイパス建設事業…15	(42)	流域公益保全林整備事業 牧森線36
(5)	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業…15	(43)	流域公益保全林整備事業 七袋線36
(6)	一般国道13号横手防災ステーション	(44)	流域公益保全林整備事業 太郎ヶ台線…37
	整備事業15	(45)	(仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事…38
(7)	成瀬ダム建設事業16	(46)	秋田県立湯沢高等学校体育館改築事業…38
(8)	地方道路交付金事業 比内田代線16	(47)	旧秋田県立本荘養護学校解体事業39
	地方道路交付金事業 白沢田代線18	(48)	秋田県立由利高等学校校舎等改築事業…39
	特定交通安全施設等整備事業		· 遺跡確認調査40
	国道105号 18		日本海沿岸東北自動車道建設事業40
(11)	地方道路交付金事業 常盤峰浜線18		予崎遺跡40
	地方特定道路事業 小滝二ツ井線19		地方道路交付金事業 根瀬尾去沢線…49
	船川港臨港道路改良事業 生鼻崎線…19		
	地方道路交付金事業 払戸箱井線20	(3)	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業…62
	地方特定道路事業 秋田八郎潟線20		テケ沢Ⅲ遺跡62
	特定交通安全施設等整備事業		(仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事…70
	河辺阿仁線		5川堀反町遺跡·······7(
(17)	国道105号国道道路改築事業		国道105号国道道路改築事業 80
	岩谷道路		(2) 前遺跡
(18)	国道108县国道道路改筑重業	~,	

前杉バイパス……22

# 第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成15年度の補足分は、日本海沿岸東北自動車 道建設事業、仁賀保本荘道路建設事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査8件である。平成16 年度は、仁賀保本荘道路建設事業、国道県道改築事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査48件 と、日本海沿岸東北自動車道建設事業、仁賀保本荘道路建設事業、県道改築事業、施設建設事業等に 係る遺跡確認調査5件である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育 庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員、それに地元教育委員会職員の協力 を得て、平成16年1月から平成16年12月にかけて実施したものである。

# 第2章 実施要項

# 第1節 遺跡分布調査

- 1 調査の目的
  - 開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。
- 2 調査の方法
- (1)計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。
- (2) 確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。
- (3) 遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。
- 3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 藤澤昌 谷地薫 磯村亨 糸屋和憲 吉川耕太郎

5 市町村教育委員会担当者

神田和彦、小野隆志(秋田市)、板橋範芳(大館市)、石田正明、金子亮朋(横手市)、竹内弘和、工藤直子(男鹿市)、西村直仁、児玉匡史、木村将来(琴丘町)、船橋強太(若美町)、伊藤一男(井川町)、鎌田英智(河辺町)、菊地義寿、金清祐(雄和町)、斎藤俊明(西目町)、元木悦子、佐々木達也(協和町)、中田達男、長山亜希子(角館町)、大信田壽一、草薙栄良、村山勝利(中仙町)、齊藤浩志(神岡町)、高橋松太郎(南外村)、加藤伸生(平鹿町)

# 6. 調査対象地域及び事業名

# ※平成15年度補足分(平成16年1月~3月)

No.	事業者	事 業 名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間	本荘市 大内町	3/8 · 17 · 24	踏査・試掘	試掘対象地区では遺跡は確認されなかった。
2	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間	大館市	3/29 · 30	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確 認した。
3	国土交通省	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業	西目町	3/25 · 26	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確 認した。
4	建設交通部	国道105号国道道路改築事業 岩谷道路	大内町	3/24	試掘	16年度事業地内では遺跡は確認されなかった。
5	農林水産部	県営ほ場整備事業 若美北部地区	若美町	1/29	踏査・試掘	16年度事業地内では遺跡は確認されなかった。
6	農林水産部	県営ほ場整備事業 女米木地区	雄和町	1/20 · 22, 2/6 · 25	試掘	16年度事業地内に新発見の遺跡 3 箇 所を確認した。
7	農林水産部	県営ほ場整備事業 中仙南部地区	中仙町	$\frac{1}{14} \cdot 15 \cdot 16 \cdot 27,$ $\frac{3}{23}$	試掘	16年度事業地内に新発見の遺跡4箇 所、周知の遺跡1箇所を確認した。
8	農林水産部	県営農免農道整備事業 奥羽南部地区	横手市	3/11	試掘	事業地内に周知の遺跡 1 箇所を確認 した。

# ※平成16年度分(平成16年4月~12月)

No.	事業者	事 業 名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省	一般国道13号河辺拡幅事業	河辺町	7/23, 8/11	踏査・試掘	16年度試掘対象地区では、遺跡は確認されなかった。
2	国土交通省	荒町地区河川防災ステーション 建設事業	本荘市	10/7	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
3	国土交通省	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業	西目町 仁賀保町	4/14, 5/25 · 26, 7/2, 9/24	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所、周 知の遺跡3箇所を確認した。
4	国土交通省	一般国道46号角館バイパス建設事業	角館町	11/12 · 24	踏査・試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
5	国土交通省	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	神岡町	6/3 · 15	試掘	試掘対象地区では遺跡は確認されなかった。
6	国土交通省	一般国道13号横手防災ステーション 整備事業	横手市	10/6	試掘	事業地内に周知の遺跡1箇所を確認 した。
7	国土交通省	成瀬ダム建設事業	東成瀬村	6/17, 10/29, 11/17 · 18	踏査・試掘	16年度試掘対象地区では、遺跡は確認されなかった。
8	建設交通部	地方道路交付金事業 比内田代線	大館市	10/5	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
9	建設交通部	地方道路交付金事業 白沢田代線	田代町	10/5	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
10	建設交通部	特定交通安全施設等整備事業 国道105号	鷹巣町	10/5	踏査	事業地内に周知の遺跡 1 箇所を確認 した。
11	建設交通部	地方道路交付金事業 常盤峰浜線	峰浜村	10/5	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
12	建設交通部	地方特定道路事業 小滝二ツ井線	二ツ井町	10/5	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
13	建設交通部	船川港臨港道路改良事業 生鼻崎線	男鹿市	11/11	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
14	建設交通部	地方道路交付金事業 払戸箱井線	若美町	4/20	試掘	事業地内に新発見の遺跡 1 箇所、周 知の遺跡 1 箇所を確認した。
15	建設交通部	地方特定道路事業 秋田八郎潟線	秋田市	4/15	試掘	事業地内に周知の遺跡1箇所を確認 した。
16	建設交通部	特定交通安全施設等整備事業 河辺阿仁線	河辺町	10/7	踏査	事業地内に周知の遺跡 1 箇所を確認 した。
17	建設交通部	国道105号国道道路改築事業 岩谷道路	大内町	10/7, 11/25	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡 1 箇所を確認した。
18	建設交通部	国道108号国道道路改築事業 前杉バイパス	矢島町	10/7	踏査	事業地内に周知の遺跡 1 箇所を確認 した。

No.	事業者	事 業 名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
19	建設交通部	ほ場整備関連調整事業 川西六郷線	六郷町	10/6	踏査	事業地内に周知の遺跡 1 箇所を確認 した。
20	建設交通部	特定交通安全施設等整備事業 国道107号	平鹿町	10/6	踏査	事業地内に周知の遺跡2箇所を確認 した。
21	建設交通部	河川総合開発事業 砂子沢ダム	小坂町	7/29、8/17·18	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。
22	農林水産部	県営ほ場整備事業 鯉川地区	琴丘町	4/30	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
23	農林水産部	県営ほ場整備事業 若美北部地区	若美町	12/3	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
24	農林水産部	県営ほ場整備事業 大沢地区	河辺町	10/19	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
25	農林水産部	県営ほ場整備事業 女米木地区	雄和町	10/28, 11/25	試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。
26	農林水産部	県営ほ場整備事業 新波地区	雄和町	11/26 · 30	試掘	事業地内に新発見の遺跡2箇所を確認した。
27	農林水産部	県営ほ場整備事業 種沢地区	雄和町	11/30	踏査・試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
28	農林水産部	県営ほ場整備事業 白岩第一地区	角館町	5/21	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。
29	農林水産部	県営ほ場整備事業 小種地区	協和町	6/8 • 17	試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。
30	農林水産部	県営ほ場整備事業 中仙南部地区	中仙町	12/14	試掘	事業地内に新発見の遺跡3箇所を確認した。
31	農林水産部	県営ほ場整備事業 及水地区	南外村	6/9	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
32	農林水産部	県営ほ場整備事業 鍋倉地区	平鹿町	6/23	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
33	農林水産部	ふるさと農道整備事業 北川尻地区	井川町	12/8	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
34	農林水産部	ふるさと農道整備事業 清水地区	中仙町	11/9	試掘	事業地内に周知の遺跡 1 箇所を確認 した。
35	農林水産部	ふるさと林道緊急整備事業 花矢線	大館市	10/6	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
36	農林水産部	流域循環資源林整備事業 母谷山線	峰浜村	10/6	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
37	農林水産部	流域循環資源林整備事業 前沢線	協和町	11/11	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
38	農林水産部	フォレストコミュニティ総合整備事業 峰浜線	峰浜村	10/6	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
39	農林水産部	フォレストコミュニティ総合整備事業 米代線	二ツ井町 藤里町	10/6	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
40	農林水産部	流域公益保全林整備事業 西ノ沢小滝線	能代市	10/6	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
41	農林水産部	流域公益保全林整備事業 もりよし線	森吉町	10/6	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
42	農林水産部	流域公益保全林整備事業 牧森線	協和町	11/11	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
43	農林水産部	流域公益保全林整備事業 七袋線	協和町	11/11	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
44	農林水産部	流域公益保全林整備事業 太郎ヶ台線	仁賀保町	11/11	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
45	秋田県警本部	(仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事	秋田市	8/23 · 24, 9/7	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。
46	教育委員会	秋田県立湯沢高等学校体育館改築事業	湯沢市	11/16	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。
47	教育委員会	旧秋田県立本荘養護学校解体事業	本荘市	11/2	踏査	今後試掘調査が必要である。
48	教育委員会	秋田県立由利高等学校校舎等改築事業	本荘市	11/2 · 12	踏査・試掘	事業地内では遺跡は確認されなかっ た。

第2節 遺跡確認調査

# 1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採集及び小規模の発掘調査(遺構確認面までの掘り下げ)を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

- 2 調査の方法
- (1) 地形を考慮したトレンチ及び試掘坑を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、出来る限り面的に調査範囲を広げてその確認に努める。
- (2) 確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さなどは、実測図などにより記録する。また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況などは写真撮影する。
- (3) 使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。
- 3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター

文化 財 主 查 栗澤光男

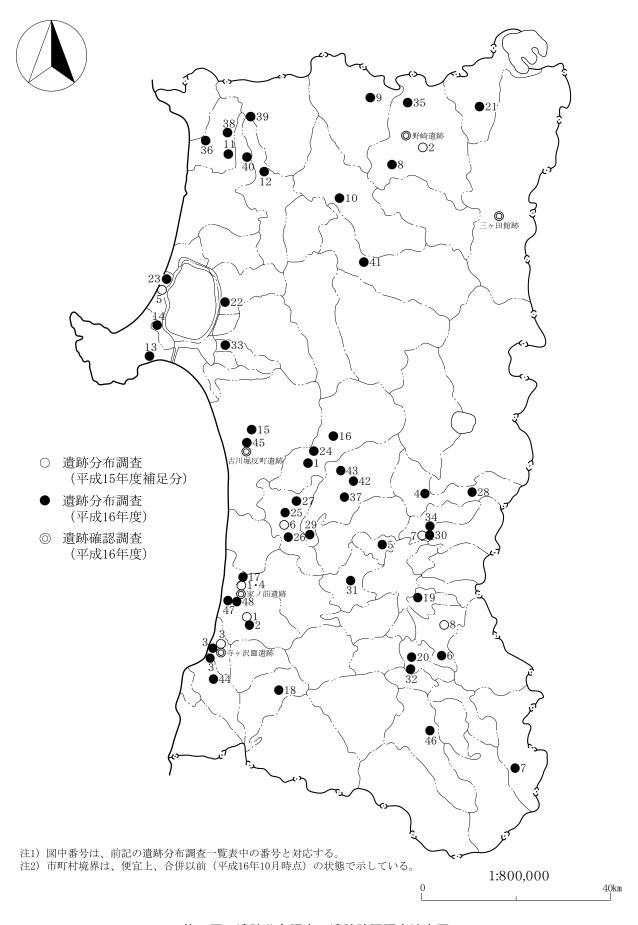
主任学芸主事 利部 修

学 芸 主 事 五十嵐一治 石澤宏基 開田猛夫 進藤 紀 菅原一彦 藤田賢哉 三浦俊成 安田博生 山村 剛 渡辺淳一

調査・研究員 遠藤 元 片岡稔彦 菊地 亮 鈴木健一 成田雄毅 堀井帝仁

#### 5 調査対象遺跡及び事業名

No.	事 業 名	遺跡名(所在地)	調査期間	調査担当者
1	日本海沿岸東北自動車道 建設事業	野崎遺跡(大館市)	平成16年11月15日 ~11月26日	三浦・安田
2	地方道路交付金事業 根瀬尾去沢線	事業 三ヶ田館跡(鹿角市)		菅原・成田
3	一般国道7号仁賀保本荘道路 建設事業	寺ケ沢   遺跡(西目町)		栗澤・片岡・菊地・堀井
4	(仮称)秋田中央警察署庁舎 建築工事	古川堀反町遺跡 (秋田市)	平成16年10月27日 ~11月25日	五十嵐・石澤・進藤・藤田・ 山村・渡辺・鈴木・遠藤
5	国道105号国道道路改築事業 家ノ前遺跡(大内町)		平成16年12月8日 ~12月16日	利部・開田



第1図 遺跡分布調査·遺跡確認調査地点図

# 第3章 調査の記録

# 第1節 遺跡分布調査

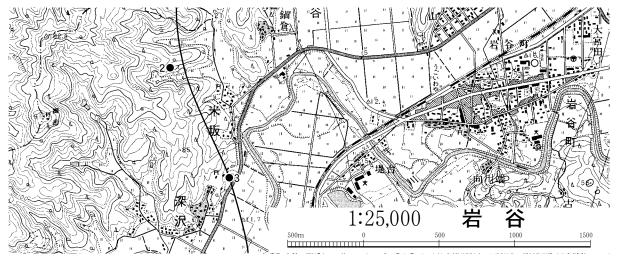
# 1. 平成15年度補足分

#### (1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間

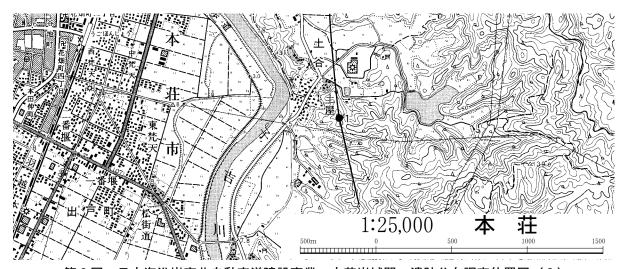
岩城町の岩城 I Cから本荘市の本荘 I Cまでの21.3kmのうち、本荘市の本線予定地の一部箇所、大内町の本線予定地の一部箇所及び付け替え道路予定地の一部箇所について追加試掘した。

調査の結果、工事予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		本荘市土谷字猿田	• •	山林	なし	
2		大内町米坂字堂ノ沢		山林	なし	
3		大内町深沢字米の沢		水田	なし	



第2図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間 遺跡分布調査位置図(1)



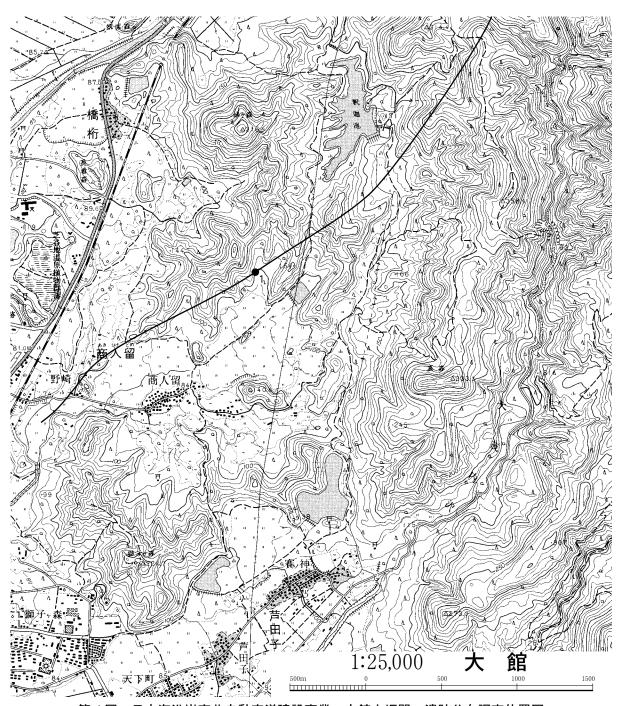
第3図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間 遺跡分布調査位置図(2)

# (2) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間

大館市の大館北ICから東北自動車道に接続する14.5kmのうち、大館市の本線予定地の一部箇所について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。田ノ沢遺跡は、縄文土器片の出土により確認したが、遺物が出土した土層の広がる範囲が狭く、遺構も確認できなかったことから工事施工の対応について慎重工事とした。

N	o.	遺	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	遺構	・遺物	備	考	
	1	田ノ	沢遺.	跡	大館市商人	留气	字田ノ沢	縄文		山林		縄文土器	片(前期)	新発見の	り遺跡	



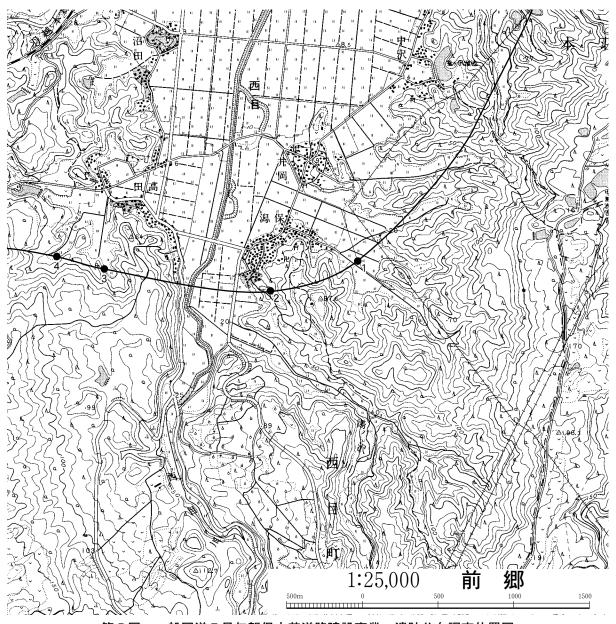
第4図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間 遺跡分布調査位置図

# (3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業

本荘市二十六木の本荘ICから仁賀保町平沢の仁賀保ICまでの事業予定地のうち、西目町部分のトンネル出入口部分を中心に試掘した。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。清水沢遺跡は、縄文土器片の出土により確認した。工事施工の対応については、今後、再試掘を行った上で、原因者と協議する予定である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		西目町西目字館ノ後	• •	山林	なし	
2	清水沢遺跡	西目町西目字清水沢	縄文	畑地	縄文土器片	新発見の遺跡
3		西目町西目字寺ヶ沢	• •	山林	なし	
4		西目町西目字寺ヶ沢		山林	なし	



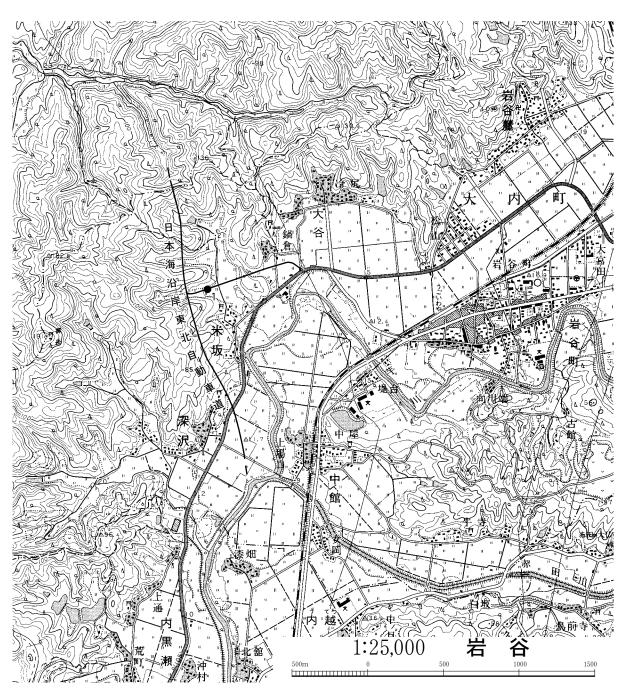
第5図 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業 遺跡分布調査位置図

# (4) 国道105号国道道路改築事業 岩谷道路

大内町内の事業予定地について、日沿道大内JCT付近の水田を試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区 を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・ 大内町米坂字堂ノ沢		• •	水田	なし	



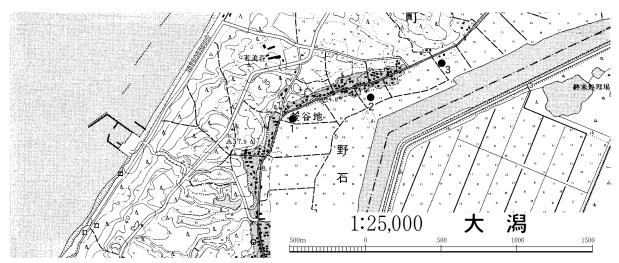
第6回 国道105号国道道路改築事業 岩谷道路 遺跡分布調査位置図

# (5) 県営ほ場整備事業 若美北部地区

若美町若美北部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積109ha、平成17年度まで6箇年計画の事業である。平成16年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		若美町野石字比潟谷地	• •	水田	なし	
2		若美町野石字谷地中		水田	なし	
3		若美町野石字中山		水田	なし	



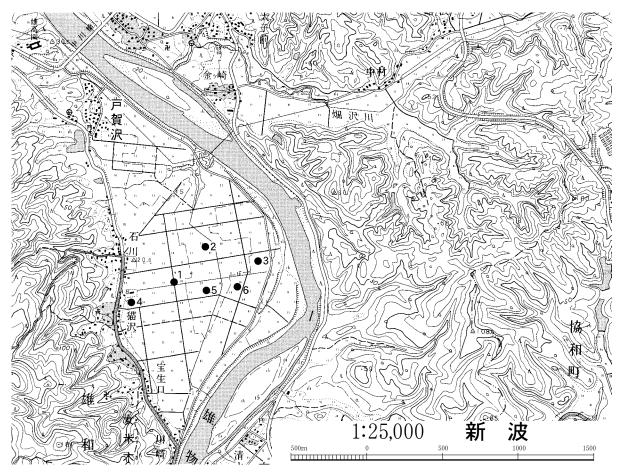
第7図 県営ほ場整備事業 若美北部地区 遺跡分布調査位置図

#### (6) 県営ほ場整備事業 女米木地区

雄和町女米木地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積138ha、平成19年度まで8箇年計画の 事業である。16年度事業予定地に確認された遺跡について再試掘したほか、追加地区を試掘した。

平成16年度事業予定地では、3箇所の遺跡が確認されていた。猫沢遺跡では遺構、遺物とも確認できなかったことから工事施工の対応について慎重工事とした。石川Ⅱ遺跡では土師器片の散布を確認したが、遺構は確認できなかった。女米木山崎遺跡では地表下50cmほどに土師器片、須恵器片の遺物包含層を確認し、土坑を確認した。これらの遺跡での工事施工の対応について、切り土予定地区での遺物散布が希薄で遺構が確認されていないこと、また遺構検出地点では、一部設計変更を行い施工が遺構確認面の深さに至らないことから、工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	猫沢遺跡	雄和町女米木字猫沢	平安	水田	なし	新発見の遺跡
2	石川Ⅱ遺跡	雄和町女米木字石川	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
3	女米木山崎遺跡	雄和町女米木字山崎	平安	水田	土坑·土師器·須恵器	新発見の遺跡
4		雄和町女米木字六百刈	• •	水田	なし	
5		雄和町女米木字山崎	• •	水田	なし	
6		雄和町女米木字山崎	• •	水田	なし	



第8図 県営ほ場整備事業 女米木地区 遺跡分布調査位置図

#### (7) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区

中仙町中仙南部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積481ha、平成19年度まで 9 箇年計画の事業である。平成16年度事業予定地区に確認された遺跡について再試掘した。

平成16年度事業予定地では、5箇所で遺跡が確認されていた。館腰Ⅱ遺跡では土師器片の散布を、水畑屋甲遺跡では地表下50cmより深い位置で土師器片を多く含む遺物包含層を、水畑屋乙遺跡では縄文土器片(後期)の遺物包含層の遺存する地点と土師器片、須恵器片の遺物包含層の遺存する地点を、桑田遺跡では縄文土器片、土師器片の散布を確認したが、いずれの遺跡でも遺構は確認できなかった。また、七ッ釜遺跡では遺構、遺物とも確認できなかった。これらの遺跡の工事施工の対応について、特に水畑屋甲遺跡では施工が遺物包含層まで及ばないこと、また水畑屋乙遺跡では一部施工計画の変更を行い施工が遺物包含層に至らないことから、いずれも工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	館腰Ⅱ遺跡	中仙町清水字館腰	平安	水田	土師器	新発見の遺跡
2	七ッ釜遺跡	中仙町清水字七ッ釜	平安	水田	なし	周知の遺跡
3	水畑屋甲遺跡	中仙町清水字水畑屋甲	平安	水田	土師器	新発見の遺跡
4	水畑屋乙遺跡	中仙町清水字水畑屋乙	縄文•平安	水田	縄文土器·土師器·須恵器	新発見の遺跡
5	桑田遺跡	中仙町清水字桑田	縄文•平安	水田	縄文土器・土師器	新発見の遺跡



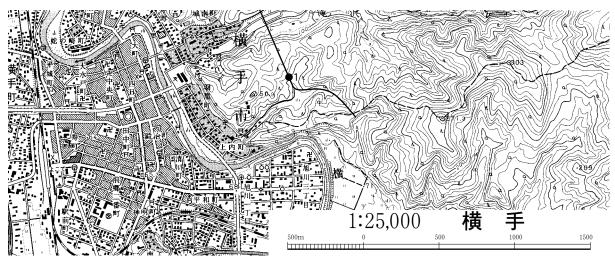
第9図 県営ほ場整備事業 中仙南部地区 遺跡分布調査位置図

# (8) 県営農免農道整備事業 奥羽南部地区

横手市街地の東部に計画された奥羽南部第2・4地区農免農道整備計画で、延長1,448m、幅員7mの計画路線の一部箇所について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡1箇所が工事予定地に係ることを確認した。朝草刈城跡では、遺物の出土は無く、明瞭な遺構は確認できなかったが、造成に由来すると考えられる堆積土層が確認された。このため、工事施工の対応については工事立会とした。

No	. 遺 跡 名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	朝草刈城跡	横手市前郷字城付	中世	山林	なし	周知の遺跡



第10図 県営農免農道整備事業 奥羽南部地区 遺跡分布調査位置図

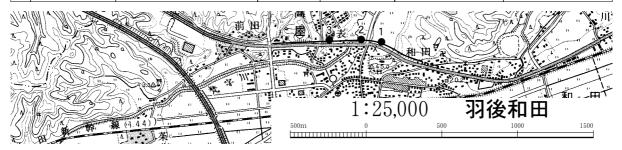
# 2. 平成16年度分

#### (1) 一般国道13号河辺拡幅事業

河辺町神内から秋田市上北手古野に至る事業予定地6.6kmのうち、路線中心杭№191~225の原野、山林について踏査し、試掘した。

調査の結果、遺跡は確認されなかった。今後、路線中心杭基点~No.191については事業の進捗状況 に合わせ、踏査、試掘が必要である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		河辺町北野田高屋字黒沼下堤下	• •	山林	なし	
2		河辺町北野田高屋字黒沼下堤下		原野	なし	
3		河辺町北野田高屋字雷谷地	• •	原野	なし	



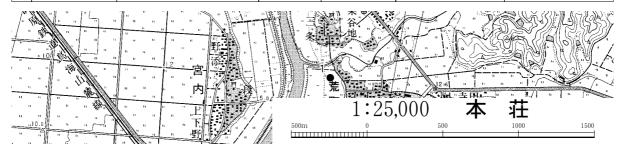
第11図 一般国道13号河辺拡幅事業 遺跡分布調査位置図

#### (2) 荒町地区河川防災ステーション建設事業

本荘市荒町地区の事業箇所について踏査した。

調査の結果、事業地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡	名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1			本荘市荒町	• •	水田	なし	



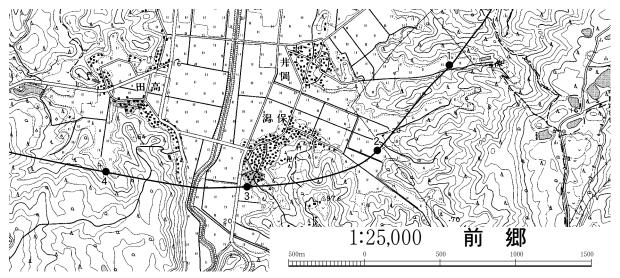
第12図 荒町地区河川防災ステーション建設事業 遺跡分布調査位置図

# (3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業

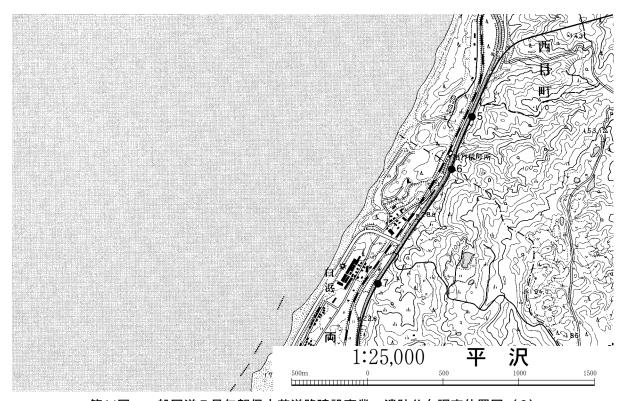
本荘市の本荘 I Cから仁賀保町の仁賀保 I Cに至る事業予定地12.5kmのうち、路線中心杭№25~354について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡1箇所と周知の遺跡3箇所を確認した。西目町部分については試掘を実施した。工事施工の対応としては、寺ヶ沢Ⅲ遺跡については確認調査を行い、対応を協議することとし、前ヶ沢遺跡、猿田遺跡については工事立会、大森遺跡については慎重工事とした。なお、仁賀保町部分については、踏査して試掘必要箇所を選定した。当該箇所については、今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		西目町西目字堅田沢	• •	水田	なし	
2	前ヶ沢遺跡	西目町西目字前ヶ沢	古代	水田	須恵器	周知の遺跡
3	大森遺跡	西目町西目字大森	古代	水田	土師器	周知の遺跡
4	寺ヶ沢Ⅲ遺跡	西目町西目字寺ヶ沢	縄文	山林	縄文土器	新発見の遺跡
5		西目町出戸字猿田		山林	なし	
6	猿田遺跡	西目町出戸字猿田	古代	山林	土師器	周知の遺跡
7		仁賀保町平沢		山林・原野		



第13図 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業 遺跡分布調査位置図(1)



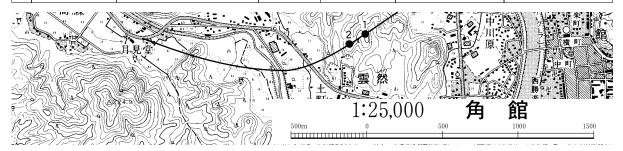
第14図 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業 遺跡分布調査位置図(2)

#### (4) 一般国道46号角館バイパス建設事業

田沢湖町羽根ヶ台地区から角館町月見堂地区に至る事業予定地6.1kmのうち、路線中心杭№.204~219 の山林について踏査、試掘した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。今後も踏査・試掘の対応が必要である。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		角館町雲然字山崎		山林	なし	
2		角館町雲然字山崎		山林	なし	



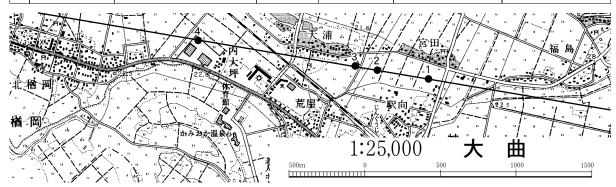
第15図 一般国道46号角館バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

#### (5) 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

大曲市の花館地区から神岡町の北楢岡地区に至る事業予定地9.6kmのうち、路線中心杭№168~251の 用地買収が終了した水田について試掘した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。今後も試掘の対応が必要である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		神岡町神宮寺字大浦		水田	なし	
2		神岡町神宮寺字大浦		水田	なし	
3		神岡町神宮寺字大浦		水田	なし	
4		神岡町神宮寺字内大坪		水田	なし	



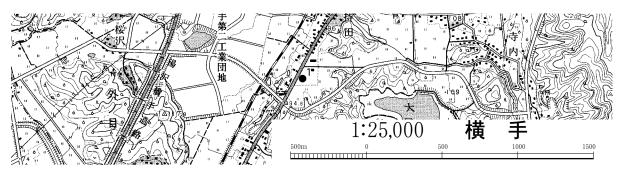
第16図 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

#### (6) 一般国道13号横手防災ステーション整備事業

横手市新藤柳田地区の防災ステーションの建設工事である。事業予定地を試掘した。

調査の結果、事業予定地内に、周知の遺跡1箇所を土層のつながりにより確認した。ただし、遺構や遺物等が検出されなかったことから、工事施工の対応については慎重工事とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	笹崎A遺跡	横手市新藤柳田字笹崎	縄文	畑地	なし	周知の遺跡



第17図 一般国道13号横手防災ステーション整備事業 遺跡分布調査位置図

#### (7) 成瀬ダム建設事業(位置図は第19図)

流域面積68kmの事業地のうち、国道342号付け替え道路建設予定地で試掘を行った

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。事業計画や用地取得の進捗状況と照らし合わせながら、今後も引き続き試掘等の対応が必要である。

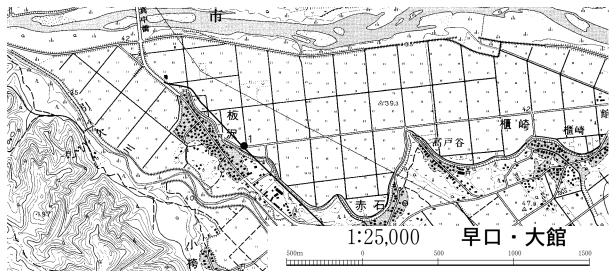
No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		東成瀬村椿川字桧山台		山林	なし	
2		東成瀬村椿川字桧山台		水田	なし	
3		東成瀬村椿川字桧山台		原野	なし	

#### (8) 地方道路交付金事業 比内田代線

大館市板沢地区で比内田代線について踏査し、地形と事業計画を照合した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		大館市板沢字乙上野		水田	なし	

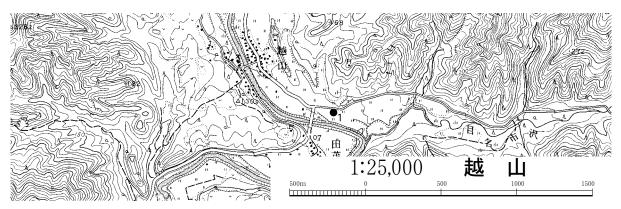


第18図 地方道路交付金事業 比内田代線 遺跡分布調査位置図

# (9) 地方道路交付金事業 白沢田代線

田代町田茂ノ木地区で白沢田代線について踏査し、地形と事業計画を照合した。 調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		田代町岩瀬字田茂ノ木	• •	水田	なし	



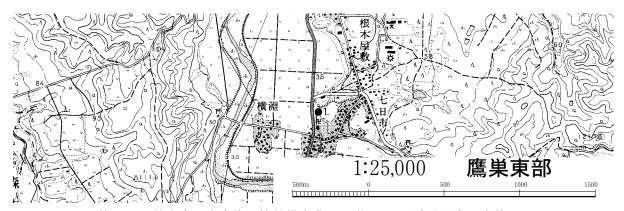
第20図 地方道路交付金事業 白沢田代線 遺跡分布調査位置図

# (10) 特定交通安全施設等整備事業 国道105号

鷹巣町七日市地区で歩道の拡幅工事が予定されており、踏査し、現況確認した。

調査の結果、周知の遺跡1箇所を確認した。遺物の散布が認められたが、遺物包含層の検出には至らず、また、掘削の範囲も狭小であることから、工事施工の対応を工事立会とした。

No	. 遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	山の上遺跡	鷹巣町七日市字山の上	縄文	山林	縄文土器片	周知の遺跡

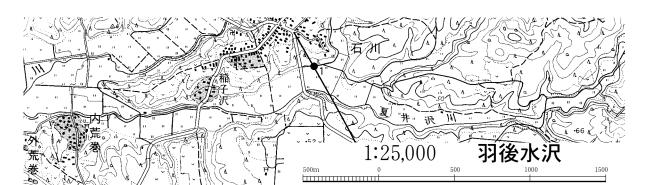


第21図 特定交通安全施設等整備事業 国道105号 遺跡分布調査位置図

#### (11) 地方道路交付金事業 常盤峰浜線

峰浜村石川地区で常盤峰浜線について踏査し、地形と事業計画を照合した。 調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		峰浜村石川字石川	• •	山林・水田	なし	



第22図 地方道路交付金事業 常盤峰浜線 遺跡分布調査位置図

# (12) 地方特定道路事業 小滝二ツ井線

二ツ井町大渕地区で小滝二ッ井線について踏査し、地形と事業計画を照合した。 調査の結果、事業予定地内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		二ツ井町梅内字大渕	• •	水田	なし	



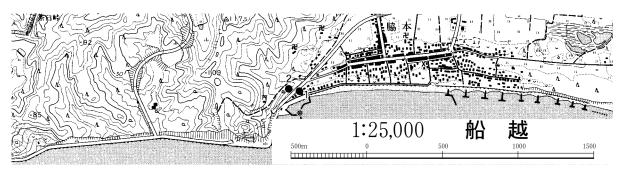
第23図 地方特定道路事業 小滝二ツ井線 遺跡分布調査位置図

#### (13) 船川港臨港道路改良事業 生鼻崎線

男鹿市脇本地区で道路改良事業が予定されている生鼻崎線について、地権者の承諾が得られたことから、路線中心杭№123~129を試掘した

調査の結果、試掘した範囲では、遺跡は確認されなかった。今後も試掘の対応が必要である。

No	遺	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	遺構・遺物	備	考
1				男鹿市脇本	脇本	字横町道下			宅地		なし		
2				男鹿市脇本	脇本	字横町道下			原野		なし		



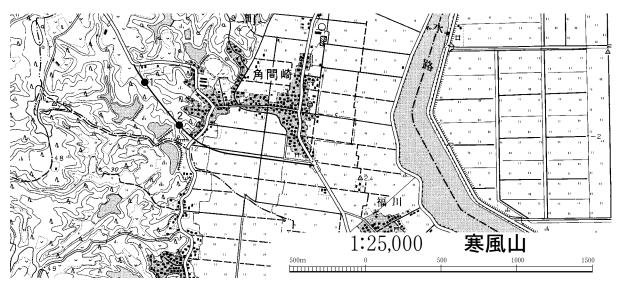
第24図 船川港臨港道路改良事業 生鼻崎線 遺跡分布調査位置図

# (14) 地方道路交付金事業 払戸箱井線

若美町内の事業予定地1.86kmについて、試掘を行った。

調査の結果、事業地内に周知の遺跡 1 箇所と新発見の遺跡 1 箇所を確認した。岡見沢Ⅲ遺跡は遺物がごく僅かであり、堆積土の状態も不安定であることから、遺跡主要部分からははずれた箇所と判断され、工事施工の対応は工事立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	十文字IV遺跡	若美町角間崎字十文字	縄文	山林	なし	周知の遺跡
2	岡見沢Ⅲ遺跡	若美町角間崎字岡見沢	縄文	山林	石器剥片	新発見の遺跡



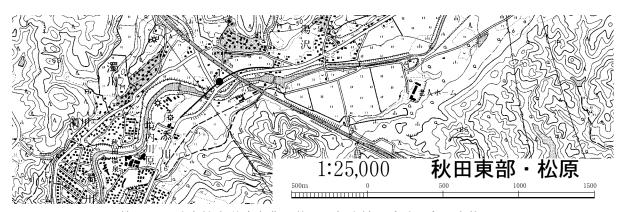
第25図 地方道路交付金事業 払戸箱井線 遺跡分布調査位置図

#### (15) 地方特定道路事業 秋田八郎潟線

秋田市添川地内の事業予定地を試掘した。

調査の結果、事業地内に周知の遺跡1箇所を確認した。表土面から攪乱が認められ、遺構、遺物ともに認められなかったことから、工事施工の対応については慎重工事とした。

N	). 道	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	遺構	・遺物	備	考
	1 飛鳥田遺跡		秋田市添川	字拜	<b>%</b> 鳥田	縄文		荒蕪均	也	なし		周知の遺	遺跡	



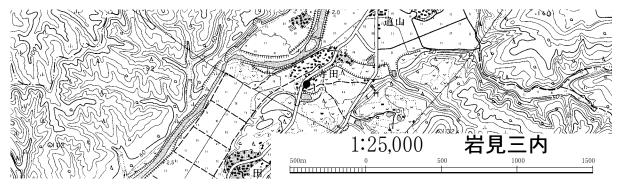
第26図 地方特定道路事業 秋田八郎潟線 遺跡分布調査位置図

# (16) 特定交通安全施設等整備事業 河辺阿仁線

河辺町三内の歩道拡幅事業予定地について踏査した。

調査の結果、事業地内に周知の遺跡1箇所を確認した。工事施工の対応については、面積が狭小であり、平坦面が非常に少ないことから、試掘を行わず、切り土工事時の工事立会とした。

No	遺跡(	名	所	在	地	時	代	現	況	遺桿	構・遺物	備	考
1	1 祇園台遺跡		河辺町三内	习字礼	氏園台	縄文		山林			•	周知の遺	跡



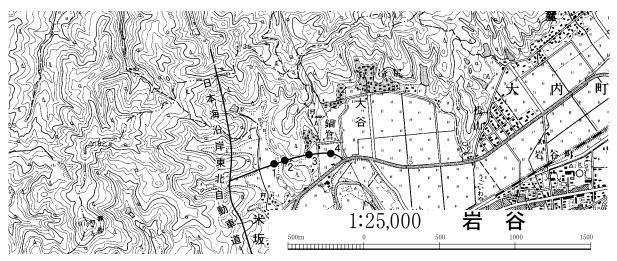
第27図 特定交通安全施設等整備事業 河辺阿仁線 遺跡分布調査位置図

# (17) 国道105号国道道路改築事業 岩谷道路

大内町の日本海沿岸東北自動車道大内JCTから国道105号までの事業予定地について、丘陵および水田を踏査、試掘した。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。遺跡は、丘陵地に存在することが判明し、確認調査を行って発掘調査が必要が否かを判断することとした。水田部分では、遺構、遺物とも検出されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		大内町米坂字堂ノ沢	•	水田	なし	
2	家ノ前遺跡	大内町米坂字家ノ前	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
3		大内町大谷字鍋倉		水田	なし	
4		大内町大谷字鍋倉		水田	なし	



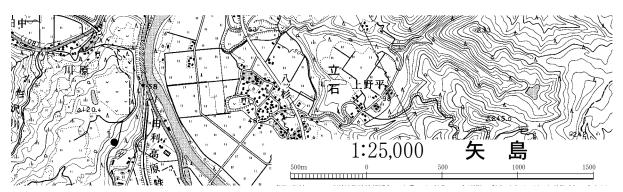
第28図 国道105号国道道路改築事業 岩谷道路 遺跡分布調査位置図

# (18) 国道108号国道道路改築事業 前杉バイパス

矢島町内の事業予定地について踏査した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡1箇所を確認した。

No	. 遺 跡 名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	前杉遺跡	矢島町城内字前杉	縄文	山林		周知の遺跡



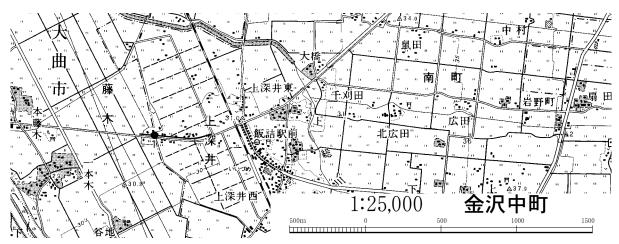
第29図 国道108号国道道路改築事業 前杉バイパス 遺跡分布調査位置図

# (19) ほ場整備関連調整事業 川西六郷線

六郷町上深井から大曲市藤木までの事業予定地を踏査した。

調査の結果、事業予定地内で周知の遺跡1箇所を確認した。今後の取り扱いについては、今年度中に試掘調査を実施し、工事施工の対応を検討することとした。

N	Vo.	遺	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	進	は構・遺物	備	考
	1	藤木	遺跡		大曲市藤木	(字-	一本柳谷地	古代		宅地	畑地		• •	周知の遺	跡



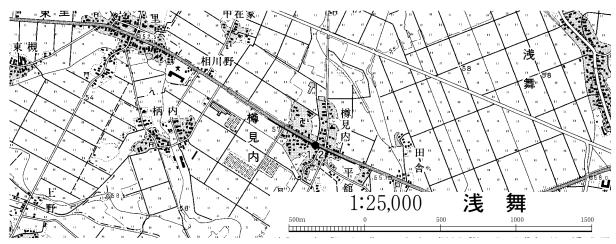
第30図 ほ場整備関連調整事業 川西六郷線 遺跡分布調査位置図

#### (20) 特定交通安全施設等整備事業 国道107号

平鹿町樽見内地区で計画されている歩道整備事業予定地を踏査した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡2箇所を確認した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	樽見内古館跡	平鹿町樽見内字古館	中世	道路		周知の遺跡
2	古館C遺跡	平鹿町樽見内字古館	古代	道路		周知の遺跡



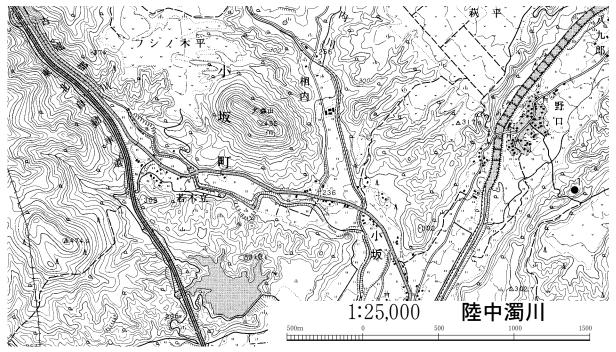
第31図 特定交通安全施設等整備事業 国道107号 遺跡分布調査位置図

# (21) 河川総合開発事業 砂子沢ダム

小坂町砂子沢地区の事業予定地について踏査し、試掘を実施した。

調査の結果、事業予定地に隣接した場所に、新発見の遺跡1箇所を確認した。工事施工の対応としては、遺跡範囲に工事範囲が影響を及ぼす場合には対応を協議することとした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	台作遺跡	小坂町砂子沢字台作	縄文	山林	剥片	新発見の遺跡



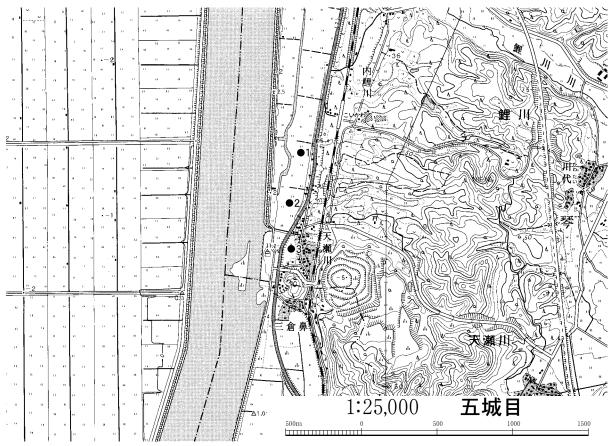
第32図 河川総合開発事業 砂子沢ダム 遺跡分布調査位置図

# (22) 県営ほ場整備事業 鯉川地区

琴丘町鯉川地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積121ha、平成18年度まで8箇年の事業である。このうち平成16年度事業予定地区について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		琴丘町鯉川字深根	• •	水田	なし	
2		琴丘町鯉川字潟端		水田	なし	
3		琴丘町天瀬川字三倉鼻		水田	なし	



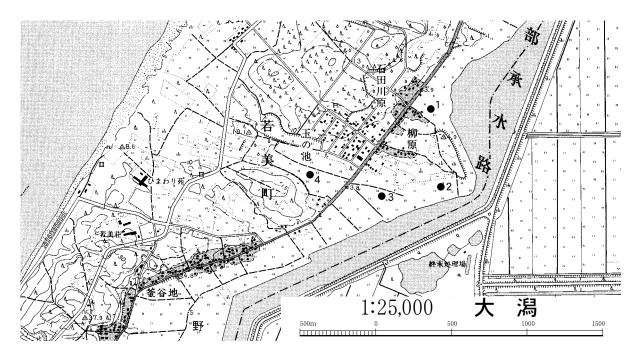
第33図 県営ほ場整備事業 鯉川地区 遺跡分布調査位置図

# (23) 県営ほ場整備事業 若美北部地区

若美町若美北部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積108ha、平成19年度まで8箇年の事業である。このうち平成17年度事業予定地区について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		若美町野石字柳原	• •	水田	なし	
2		若美町野石字柳原	• •	水田	なし	
3		若美町野石字柳原	• •	水田	なし	
4		若美町野石字柳原	• •	水田	なし	



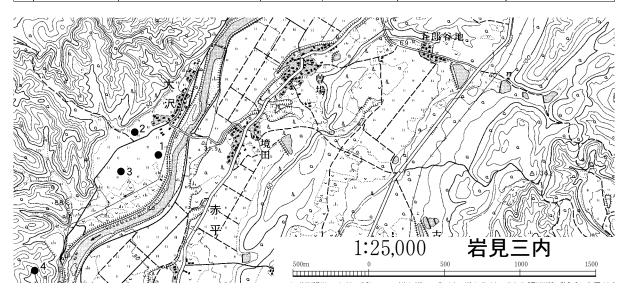
第34図 県営ほ場整備事業 若美北部地区 遺跡分布調査位置図

# (24) 県営ほ場整備事業 大沢地区

河辺町大沢地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積21ha、平成21年度まで6箇年計画の事業である。平成17年度事業予定地について試掘した。

調査対象地は、周知されている高岡城跡の隣接地にあたるが、調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		河辺町大沢字中島	• •	水田	なし	
2		河辺町大沢字治郷沢	• •	水田	なし	
3		河辺町大沢字中島		水田	なし	
4	高岡城跡	河辺町大沢字苗代	中世	山林		周知の遺跡



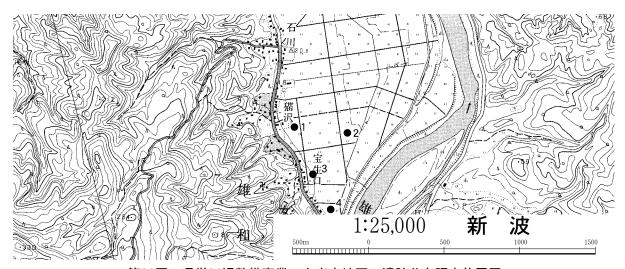
第35図 県営ほ場整備事業 大沢地区 遺跡分布調査位置図

# (25) 県営ほ場整備事業 女米木地区

雄和町女米木地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積138ha、平成19年度まで8箇年計画の 事業である。平成17年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。猫沢Ⅱ遺跡は、土師器片、須恵器片の 出土により確認した。調査結果をもとに原因者と協議し、一部設計変更を行い、施工が遺構確認面の 深さに至らないこととなったため、工事立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	猫沢Ⅱ遺跡	雄和町女米木字猫沢	平安	水田	土師器片·須恵器片	新発見の遺跡
2		雄和町女米木字宝生口		水田	なし	
3		雄和町女米木字宝生口		水田	なし	
4		雄和町女米木字宝生口		水田	なし	



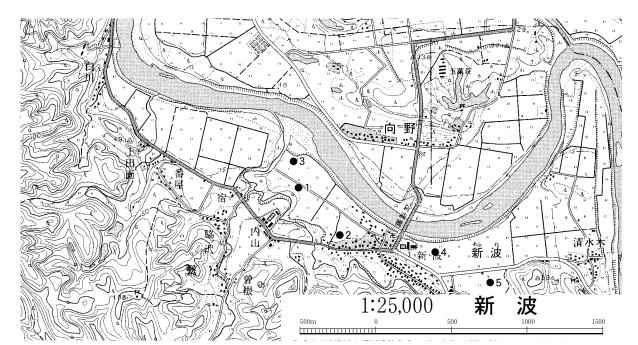
第36図 県営ほ場整備事業 女米木地区 遺跡分布調査位置図

#### (26) 県営ほ場整備事業 新波地区

雄和町新波地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積76ha、平成19年度まで8箇年計画の事業である。平成17年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡2箇所を確認した。新波志開遺跡は縄文土器片、新波新町 遺跡は遺構の検出により確認した。工事施工の対応については、新波志開遺跡は、施工方法の変更を 含め原因者と協議中である。新波新町遺跡は、施工計画が遺構確認面の深さに至らないことから工事 立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	新波志開遺跡	雄和町新波字志開	縄文	水田	縄文土器片	新発見の遺跡
2	新波新町遺跡	雄和町新波字新町	中・近世	水田	井戸跡	新発見の遺跡
3		雄和町新波字志開	• •	水田	なし	
4		雄和町新波字竹の花	• •	水田	なし	
5		雄和町新波字碇り	• •	水田	なし	



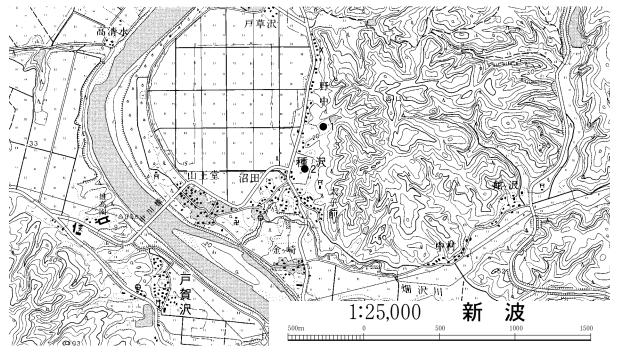
第37図 県営ほ場整備事業 新波地区 遺跡分布調査位置図

# (27) 県営ほ場整備事業 種沢地区

雄和町種沢地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積109ha、平成19年度まで9箇年計画の事業である。平成17年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

N	[o. j	遺 跗	名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
	1 .		•	雄和町種沢字野中		水田	なし	
	2 .		•	雄和町種沢字前田		水田	なし	



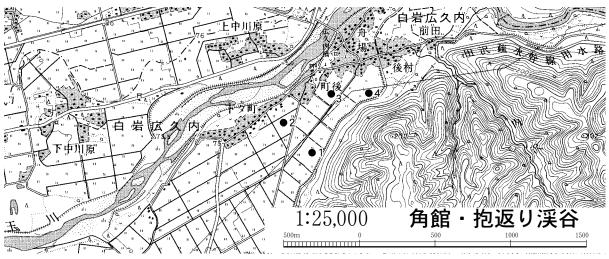
第38図 県営ほ場整備事業 種沢地区 遺跡分布調査位置図

#### (28) 県営ほ場整備事業 白岩第一地区

角館町白岩地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積103ha、平成18年度まで7箇年計画の事業である。平成16年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。新合野遺跡は縄文土器片と土師器片の 出土により確認した。工事施工の対応については、施工計画が遺物包含層の深さに至らないことから 工事立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	新合野遺跡	角館町白岩字新合野	縄文•平安	水田	縄文土器片·土師器片	新発見の遺跡
2		角館町白岩字新町後		水田	なし	
3		角館町白岩字新合野		水田	なし	
4		角館町白岩字新合野		水田	なし	



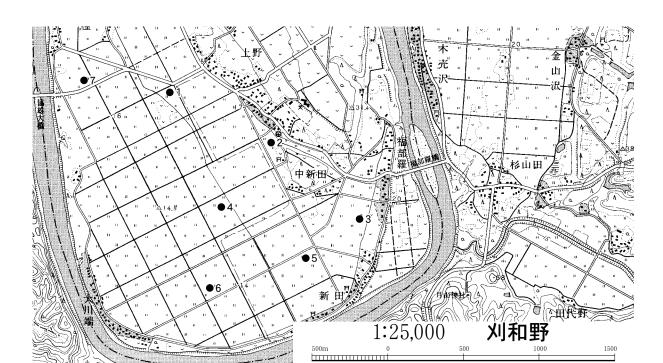
第39図 県営ほ場整備事業 白岩第一地区 遺跡分布調査位置図

# (29) 県営ほ場整備事業 小種地区

協和町小種地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積284ha、平成19年度まで7箇年計画の事業である。平成16年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡1箇所を確認した。上野遺跡は、遺構の検出により確認 した。工事施工の対応については、施工計画が遺構確認面の深さに至らないことから工事立会とした。 なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	上野遺跡	協和町小種字上野	中・近世	水田	井戸跡	新発見の遺跡
2		協和町小種字境台	• •	水田	なし	
3		協和町小種字福部羅	• •	水田	なし	
4		協和町小種字沼立		水田	なし	
5		協和町小種字中谷地		水田	なし	
6		協和町小種字大谷地		水田	なし	
7		協和町小種字杉ノ前		水田	なし	



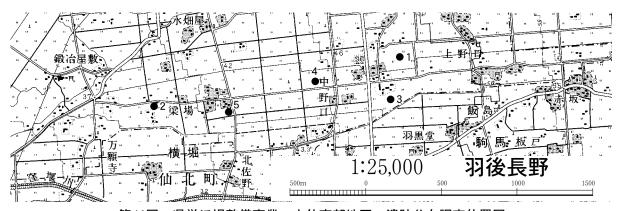
第40図 県営ほ場整備事業 小種地区 遺跡分布調査位置図

#### (30) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区

中仙町中仙南部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積481ha、平成19年度まで 9 箇年計画の事業である。平成17年度事業予定地区について試掘した。

調査の結果、事業予定地内に新発見の遺跡3箇所を確認した。大面 I 遺跡は縄文土器、大面 II 遺跡は土師器、梁場遺跡は縄文土器、石器、土師器の出土により確認した。工事施行の対応については、施工方法の変更も含めて原因者と協議する予定である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	大面I遺跡	中仙町清水字大面	縄文	水田	縄文土器	新発見の遺跡
2	梁場遺跡	中仙町清水字梁場	縄文•平安	水田	縄文土器·石器·土師器	新発見の遺跡
3	大面Ⅱ遺跡	中仙町清水字大面	平安	水田	土師器	新発見の遺跡
4		中仙町清水字大面	••	水田	なし	
5		中仙町清水字梁場	••	水田	なし	



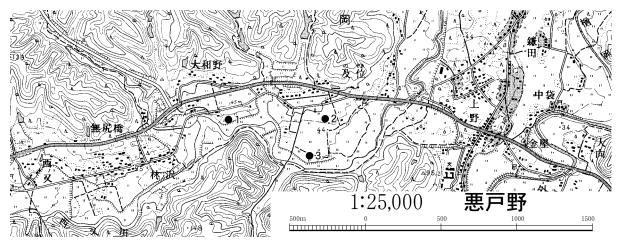
第41図 県営ほ場整備事業 中仙南部地区 遺跡分布調査位置図

#### (31) 県営ほ場整備事業 及水地区

南外村及水地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積52ha、平成19年度まで6箇年計画の事業である。このうち平成16年度事業予定地について試掘を行った。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		南外村字大和野	• •	水田	なし	
2		南外村及位		水田	なし	
3		南外村及位		水田	なし	



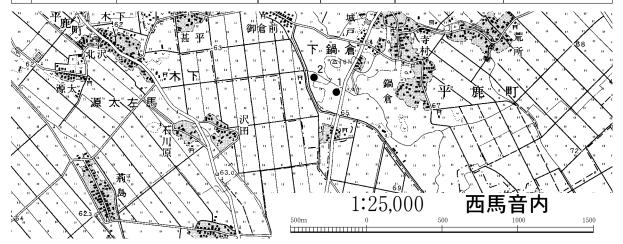
第42図 県営ほ場整備事業 及水地区 遺跡分布調査位置図

#### (32) 県営ほ場整備事業 鍋倉地区

平鹿町鍋倉地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積56ha、平成17年度まで7箇年計画の事業である。このうち平成16年度事業追加予定地について試掘を行った。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		平鹿町下鍋倉字上都	• •	水田	なし	
2		平鹿町下鍋倉字上都		水田	なし	



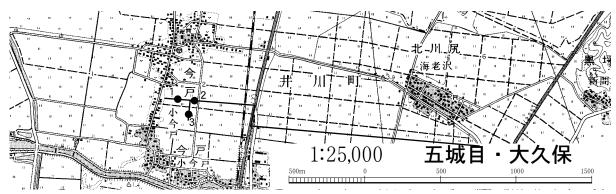
第43図 県営ほ場整備事業 鍋倉地区 遺跡分布調査位置図

# (33) ふるさと農道整備事業 北川尻地区

井川町北川尻地区で実施されているふるさと農道整備事業で、工事延長2.5km、平成20年度まで5箇年計画の事業である。平成17年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地で遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		井川町今戸	•	水田	なし	
2		井川町今戸		水田	なし	
3		井川町今戸	• •	水田	なし	



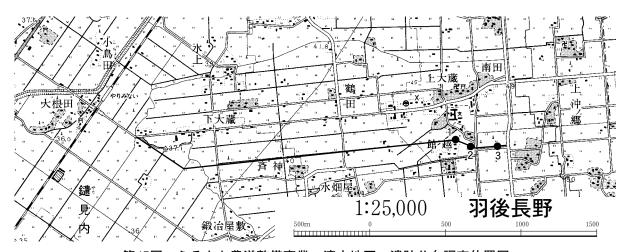
第44図 ふるさと農道整備事業 北川尻地区 遺跡分布調査位置図

# (34) ふるさと農道整備事業 清水地区

中仙町清水地区で実施されているふるさと農道整備事業で、工事延長2.5km、平成20年度まで5箇年 計画の事業である。平成17年度事業予定地について試掘した。

調査対象地内には周知されている館越遺跡があり、調査の結果、須恵器系中世陶器が出土した。工事の対応については、本来の遺物包含層および遺構が確認されなかったことから、工事立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	館越遺跡	中仙町清水字館越	中世	水田	陶器	周知の遺跡
2		中仙町清水字館越		水田	なし	
3		中仙町清水字館越	• •	水田	なし	



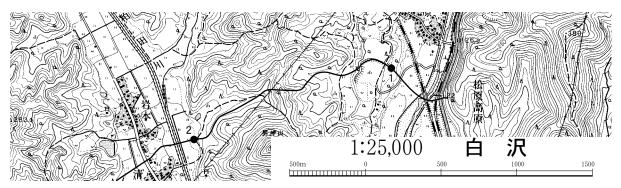
第45図 ふるさと農道整備事業 清水地区 遺跡分布調査位置図

### (35) ふるさと林道緊急整備事業 花矢線

大館市の二井山地区を起点に松原地区に至る工事延長4.6kmの事業予定地のうち、今後掘削工事が予定されている終点側2.7kmの区間を踏査した。

調査の結果、遺跡は確認されなかったが、矢立廃寺隣接地であるため、用地買収終了後、試掘調査を行い、対応を協議することとした。

No	. 遺	跡	名	所 在 地	時	代	現	況	遺構・遺物	備	考
1				大館市白沢字松原			畑地		なし		
2				大館市粕田字清水川			山林		なし		



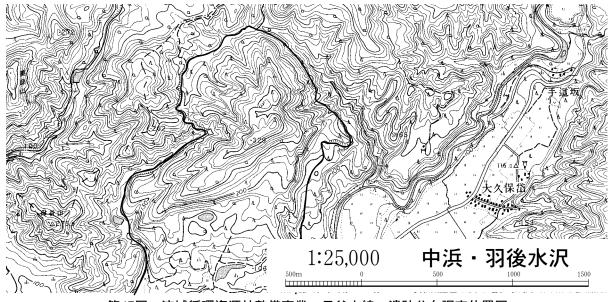
第46図 ふるさと林道緊急整備事業 花矢線 遺跡分布調査位置図

# (36) 流域循環資源林整備事業 母谷山線

峰浜村の目名潟地区を起点に岩子地区に至る工事延長1.6kmの事業予定地のうち、今後の工事着工 予定地区について踏査した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。未調査区間については、地形を勘案して、 今後の対応はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		峰浜村目名潟		山林	なし	



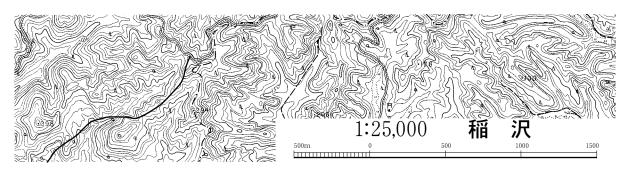
第47図 流域循環資源林整備事業 母谷山線 遺跡分布調査位置図

## (37) 流域循環資源林整備事業 前沢線

協和町前沢地区で予定されている工事延長8.5kmの事業予定地のうち、終点周辺を踏査した。

調査の結果、事業予定地内のうち、終点側では遺跡は確認されなかった。なお、起点は周知の遺跡 が隣接しており、今後調査の必要な地区を残している。

No	遺	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	遺構・遺物	備	考
1				協和町荒川	1				山林		なし		



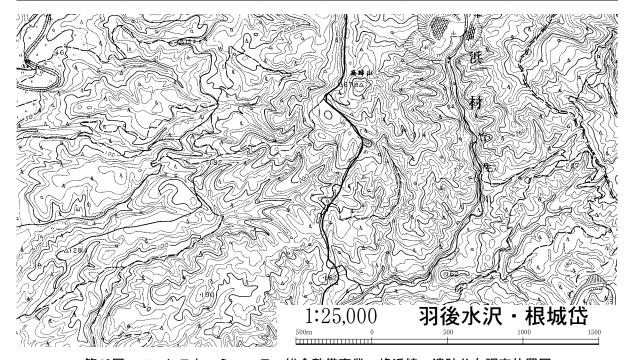
第48図 流域循環資源林整備事業 前沢線 遺跡分布調査位置図

# (38) フォレストコミュニティ総合整備事業 峰浜線

峰浜村の石川地区を起点に大岱地区に工事延長19.7kmの事業予定地のうち、起点から高峰山山頂付 近までを踏査した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地 区を残している。

I	No.	遺	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	遺構・	遺物	備	考
	1				峰浜村石川	ほな	7			山林		なし			



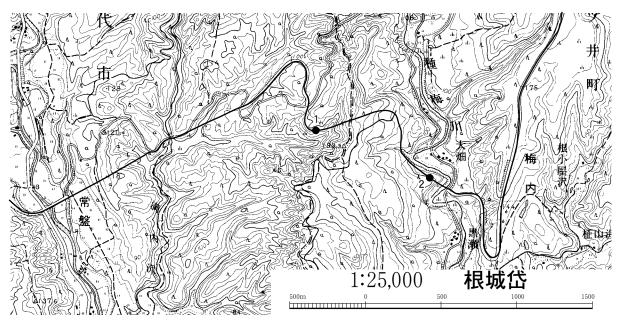
第49図 フォレストコミュニティ総合整備事業 峰浜線 遺跡分布調査位置図

# (39) フォレストコミュニティ総合整備事業 米代線

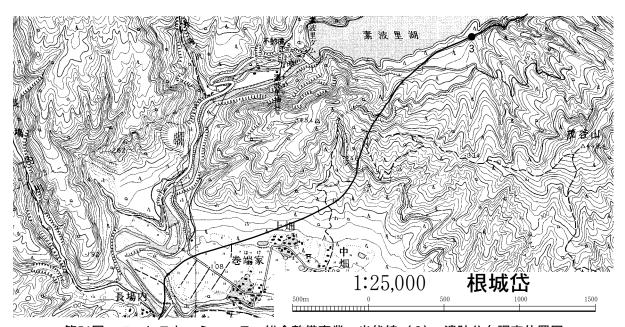
二ツ井町の梅内地区から藤里町の湯の沢地区に至る工事延長4.8kmの事業予定地のうち、万内工区および素波里湖周辺を踏査した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。なお、藤里工区については事業予定地に今 後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		能代市常盤	• •	山林	なし	
2		二ツ井町梅内		山林	なし	
3		藤里町粕毛		山林	なし	



第50図 フォレストコミュニティ総合整備事業 米代線(1) 遺跡分布調査位置図



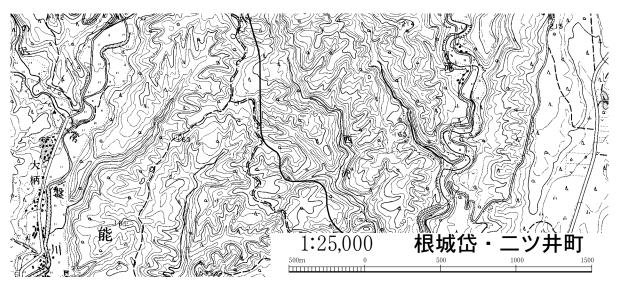
第51図 フォレストコミュニティ総合整備事業 米代線(2) 遺跡分布調査位置図

# (40) 流域公益保全林整備事業 西ノ沢小滝線

能代市種梅地区で予定されている工事延長5.2kmの事業予定地のうち、平成17年度工事着工予定地区 を踏査した。

調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。なお、事業予定地には支線の計画があり、 地形の観察からも、今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		能代市梅内	• •	山林	なし	

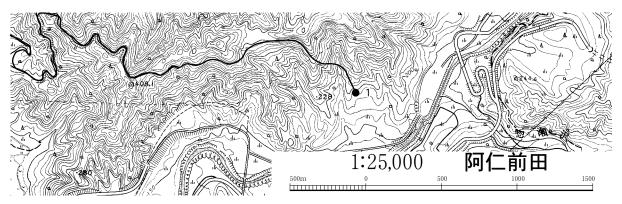


第52図 流域公益保全林整備事業 西ノ沢小滝線 遺跡分布調査位置図

### (41) 流域公益保全林整備事業 もりよし線

森吉町向様田地区で予定されている工事延長1.0kmの事業予定地のうち、終点周辺を踏査した。 調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。未調査区間については、地形を勘案して、 今後の対応はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		森吉町森吉字向様田	• •	山林	なし	

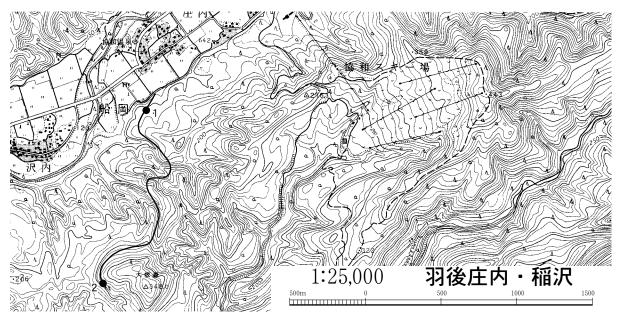


第53図 流域公益保全林整備事業 もりよし線 遺跡分布調査位置図

# (42) 流域公益保全林整備事業 牧森線

協和町牧森地区で予定されている工事延長1.8kmの事業予定地のうち、起点と終点の周辺を踏査した。 終点周辺に周知の遺跡が3箇所あるが、調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		協和町船岡	• •	山林	なし	
2		協和町船岡	• •	山林	なし	

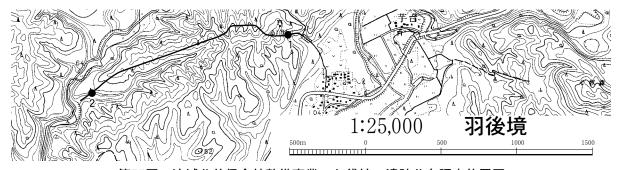


第54図 流域公益保全林整備事業 牧森線 遺跡分布調査位置図

## (43) 流域公益保全林整備事業 七袋線

協和町七袋地区で予定されている工事延長2.0kmの事業予定地のうち、起点と終点の周辺を踏査した。 調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。未調査区間については、地形を勘案して、 今後の対応はないと判断した。

No	. 遺	跡	名	所	在	地	時	代	現	況	遺構・遺物	備	考
1				協和町船區	到字十	二袋			山林		なし		
2				協和町船區	到字十	二袋			山林		なし		



第55図 流域公益保全林整備事業 七袋線 遺跡分布調査位置図

# (44) 流域公益保全林整備事業 太郎ヶ台線

本荘市で予定されている工事延長7.2kmの事業予定地のうち、今年度着工の第2・3工区を踏査した。 調査の結果、事業予定地内で遺跡は確認されなかった。未調査区間については、地形を勘案して、 今後の対応はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		仁賀保町小国	• •	山林	なし	
2		仁賀保町伊勢居地		山林	なし	



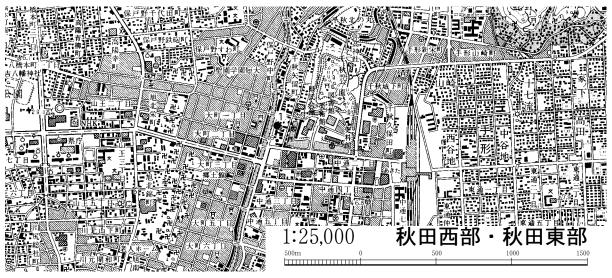
第56図 流域公益保全林整備事業 太郎ヶ台線 遺跡分布調査位置図

(45)(仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事

秋田市千秋明徳町で実施されている(仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事で、平成18年度までの3 箇年事業である。調査対象地は、周知されている久保田城跡の近接地で、久保田城下絵図等から、近 世の古川堀反町と土手長町上丁にあたり、家老等の上級武士の屋敷地があった区域である。事業予定 地の仮設工事の際に陶磁器が出土したことから、遺跡の有無を確認するために踏査及び試掘をした。

調査の結果、陶磁器、部材の出土と溝跡1条の検出により、近世の屋敷跡が残存することが判明し、 新発見の遺跡の遺跡1箇所を確認した。土地所有者から遺跡発見の通知が提出されたことから、調査、 保存等について協議を求め、確認調査を行って対応を協議することとした。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1	古川堀反町遺跡	秋田市千秋明徳町	近世	警察署庁舎	溝跡・陶磁器	新発見の遺跡



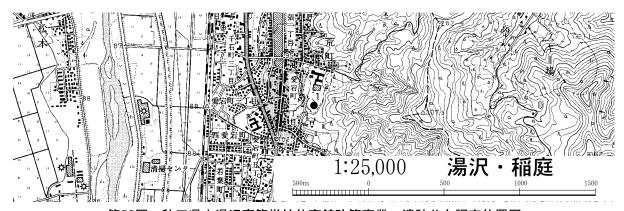
第57図 (仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事 遺跡分布調査位置図

# (46) 秋田県立湯沢高等学校体育館改築事業

湯沢市内の事業予定地内を踏査した。

調査の結果、事業予定地はすでに削平された学校グランドにあたり、遺跡は確認できなかった。

No	遺跡	名	所 在	地	時	代	現	況	遺構	・遺物	備	考
1		•	湯沢市字新町				グラン	ンド				



第58図 秋田県立湯沢高等学校体育館改築事業 遺跡分布調査位置図

# (47) 旧秋田県立本荘養護学校解体事業

本荘市で予定されている旧秋田県立本荘養護学校解体事業である。調査対象地は、周知されている 田尻遺跡、田尻野遺跡の近接地であることから踏査し、試掘箇所の選定を行った。

調査の結果、今後、試掘が必要である。

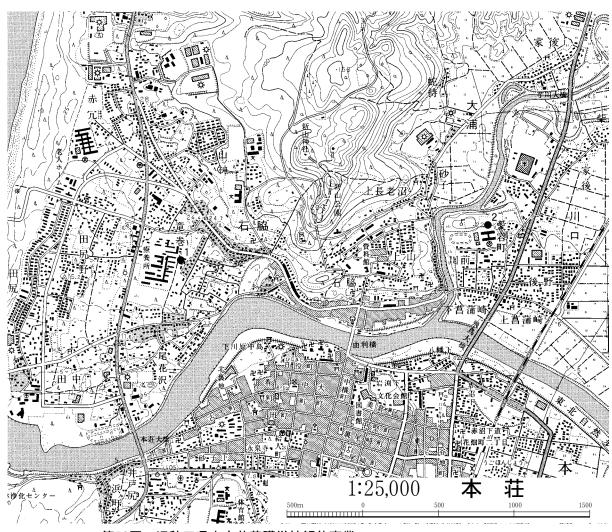
No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		本荘市竜巻		学校敷地		

# (48) 秋田県立由利高等学校校舎等改築事業

本荘市川口の現校地で実施されている由利高等学校校舎等改築事業で、平成18年度までの3箇年事業である。調査対象地は、周知されている川口館跡、菖蒲崎貝塚の近接地であることから予定地について、踏査及び試掘をした。

調査の結果、事業地内で遺跡は確認されなかった。

N	o.	遺跡	名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
4	2			本荘市川口字太鼓森	• •	学校敷地		



第59図 旧秋田県立本荘養護学校解体事業、 秋田県立由利高等学校校舎等改築事業 遺跡分布調査位置図

# 第2節 遺跡確認調査

# (1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業

# の ざき 野崎遺跡

1 遺跡所在地 大館市商人留字野崎51-8外

**2 確認調査期間** 平成16年11月15日~11月26日

 $5.400 \,\mathrm{m}^2$ 

**3 確認調査対象面積** 7,500㎡

5 遺跡の立地と現況

4 工事区域内遺跡面積

a 立地

遺跡は、JR奥羽本線大館駅より北東へ約4kmに位置し、標高76~82mの台地の南東先端部に立地する。確認調査対象区域の北西約0.7kmには国指定天然記念物芝谷地湿原植物群落が位置する。

遺跡の北東約0.3kmの北東側の沢を挟んだ台地上には、今年度調査した縄文時代のフラスコ状土坑や 古代の竪穴状遺構等が検出された谷地中遺跡があり、また、南西約1kmには平安時代の集落跡の釈迦 内中台 I 遺跡がある。

### b 現況

遺跡全体は南に向かってのびる35,000㎡程の平坦な舌状台地であり、その大半は現況畑地である。 日本海沿岸東北自動車道建設に関係して今回調査区となったのは、この舌状台地の南端部分である。 台地南端部分は緩い斜面が巡り、杉などが植えられていたが、全て伐採され、切り株及び枝葉が斜面 に多く残存する。また、台地上の平坦面は西側縁辺部に近い箇所の宅地部分を除いては、畑地として 利用されていた。

#### 6 確認調査の方法

計画路線の延びる南北方向に3本の縦断トレンチを設定し、それと交わる横断トレンチをほぼ10m おきに設定した。東側斜面は、等高線に直交するようトレンチを設定した。また、西側の宅地部分は、削平を受けていたが、この部分にも十字にトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。基本的には重機による掘削の後、確認面及びトレンチ壁面を精査した。調査区南西側の斜面には重機が入れなかったため、等高線に直交して設定した3本のトレンチは人力で掘り下げた。遺構を検出した箇所は、その拡がりを確認するため、一部拡張した。検出した遺構及び遺物は地形図上にその位置をおとし、合わせて写真撮影を行って記録した。また、基本層序は、縦断トレンチのうち中央部分(第2トレンチ)の柱状図を作成した。

確認調査における試掘面積は1,300㎡ (トレンチ幅約1.2m) で、対象面積の約17.3%に相当する

### 7 確認調査の結果

### a 層序

前述したように台地上面は平坦な畑であり、この部分では表土下60cm前後で地山面に達する。しかし、台地縁辺中央には埋没した沢があり、その部分では地山面まで2m程の深さがある。また、遺跡の所在する大館地域は十和田a火山灰降下層が認められる地域であるが、この火山灰も台地平坦面と埋没した沢とは堆積状況が異なる。以下では、この2地点を区別して層序を記述する。

北東側の平坦部の基本層序は、以下のとおりである。

第 I 層 黒色土 層厚10~20cm

第Ⅲ層 黒色土 層厚 5 ~ 20cm 遺構確認面

第Ⅳ層 黒褐色~暗褐色土 地山漸移層 層厚 5~20cm

第V層 にぶい黄褐色土 地山 遺構確認面

第 I 層は表土であり、その下に平安時代の遺構確認面である第 II 層が続く。第 II 層は第 I 層と同様の黒色土であるが、軽石(十和田 a 火山灰)の混入により第 I 層と分けることができる。軽石は本来全域に認められたものと推測されるが、耕作により第 II 層中に撹乱混入したものと判断される。第 II 層の下には地山漸移層である黒褐色~暗褐色土が堆積し、その下に縄文時代の遺構確認面である地山層が続く。平安時代の遺構は、第 II 層を掘り込んで作られるが、その底面は第 II 層あるいは第 IV 層中で終わってしまうものが多い。遺構の検出は、軽石を混じえた土の中にほとんどそれを混じえない黒色土のプランとして確認される。

沢頭部分の基本層序は、以下のとおりである。

第 I 層 黒色土 層厚15~30cm

第Ⅱ層 十和田 a 火山灰 層厚 0 ~20cm

第Ⅲ層 黒色土 層厚10~90cm

第IV a 層 黒色~黒褐色土 層厚10~30cm

第V層 にぶい黄褐色土 地山

埋没した沢では、北東側平坦部で層として確認できない十和田 a 火山灰(第 $\Pi$ 層)が20cm前後の厚さではっきりと確認された。十和田 a 火山灰の下の第 $\Pi$ 層は平坦部に比べ厚く、わずかながら遺物も出土している。第 $\Pi$ 層と地山(第V層)の中間に存在する第IV層は、上層と下層とで地山ブロックの混入する割合が異なり、上層第IV a 層で 2%、下層第IV b 層で 5%程度の混入割合である。第IV層の下には第V層の地山が続くが、その界面付近は灰白色にグライ化している。

### b 検出遺構と出土遺物

遺構は、縄文時代の竪穴住居跡 1 軒、古代の竪穴住居跡 3 軒、竪穴状遺構 2 基、焼土遺構 6 基、土坑10基、柱穴様ピット30基を確認した。柱穴様ピットは、本来掘立柱建物の柱穴と考えられる。東側斜面で確認した焼土遺構 3 基を除けば、沢より北東側の第11トレンチを中心とする平坦部に遺構が集中している。また、東側斜面で確認した焼土遺構は、生産に関連する遺構の可能性が高い。古代の竪穴住居跡は第Ⅲ層上面を確認面とし、一辺約4.0~5.2mの方形プラン、縄文時代の竪穴住居跡は第V層上面を確認面とし、直径4.2m前後の円形プランである。遺物は、第Ⅲ層上面の遺構確認面より土師器片を、第Ⅲ層中から第Ⅳ層にかけて縄文時代の土器や石器が少量出土した。

## 8 所見

#### a 遺跡の種類

縄文時代と古代の集落跡であると考えられる。

### b 遺跡の範囲と工事区域

工事区域内における遺跡範囲は沢の北東側の平坦部と東側の斜面部の5,400㎡である。なお、第24

トレンチより南側の斜面は未買収地ということもあり、確認調査ではトレンチを入れられなかったが、 斜面の遺構の検出状況からは遺構分布の可能性は極めて低いと推定され、その大半を要本発掘調査範 囲から除外する。沢より西側は宅地造成時に大きく削平されており、南西側の斜面からも遺構・遺物 が検出されなかったため、同じく範囲から除外する。

# c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代の竪穴住居跡、土坑、古代の竪穴住居跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、焼土遺構、土坑などの検出が予想される。遺物は、古代の土師器などが少量出土すると思われる。

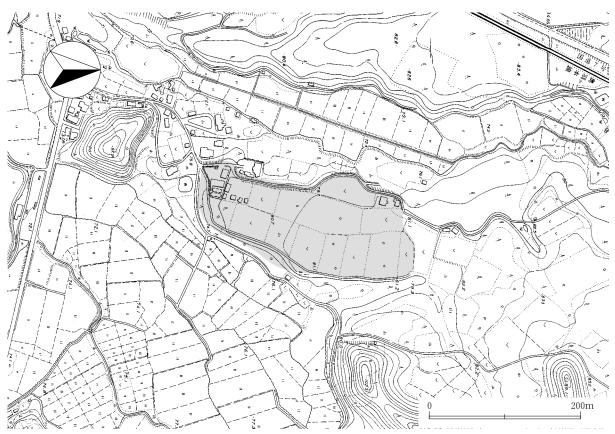
前述したように、平安時代の遺構は第Ⅲ層を掘り込んで作られるが、その底面は第Ⅲ層あるいは第 IV層中で終わってしまっているものが多い。すなわち、通常の遺構確認面である地山(第 V 層)には 当該時期の遺構痕跡はほとんど残されていない。したがって、本発掘調査においては第Ⅲ層上面を丹 念に精査し、遺構確認に努める必要があるだけでなく、第Ⅲ層の黒色土中に作られる遺構の立ち上が りや底面を検出するという通常では想定できない条件での調査が必要である。このような条件の下で は重機使用は却って調査を阻害する可能性があり、人力によるきわめて慎重な掘削が調査の全工程に わたって必要である。



第60図 野崎遺跡位置図

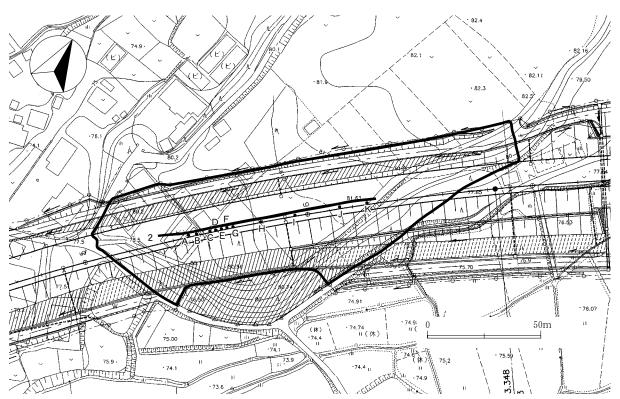
1:25,000

館

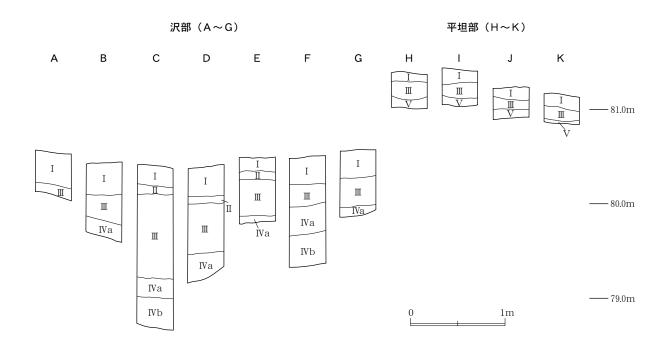


第61図 野崎遺跡推定範囲図

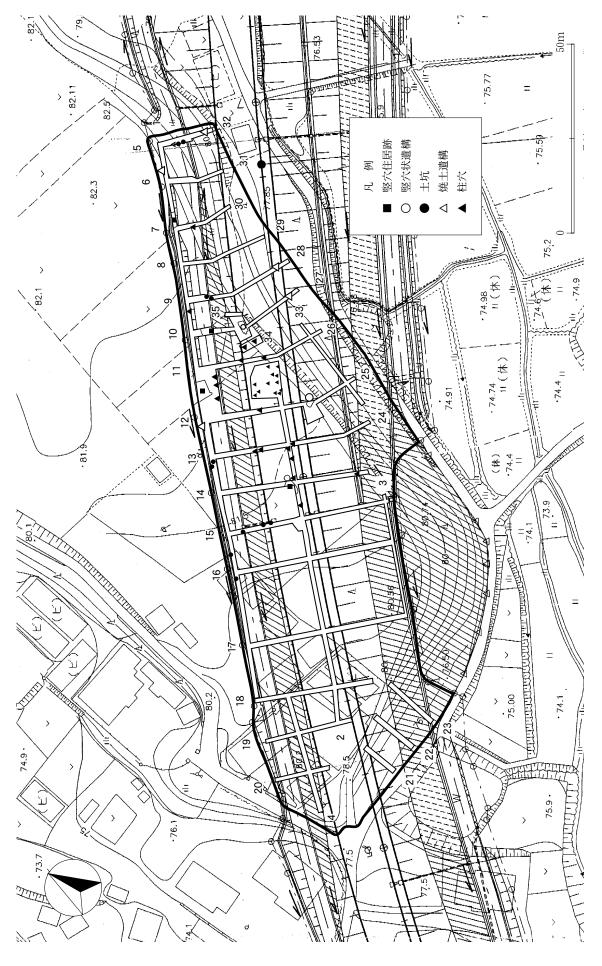
.. . .. ...



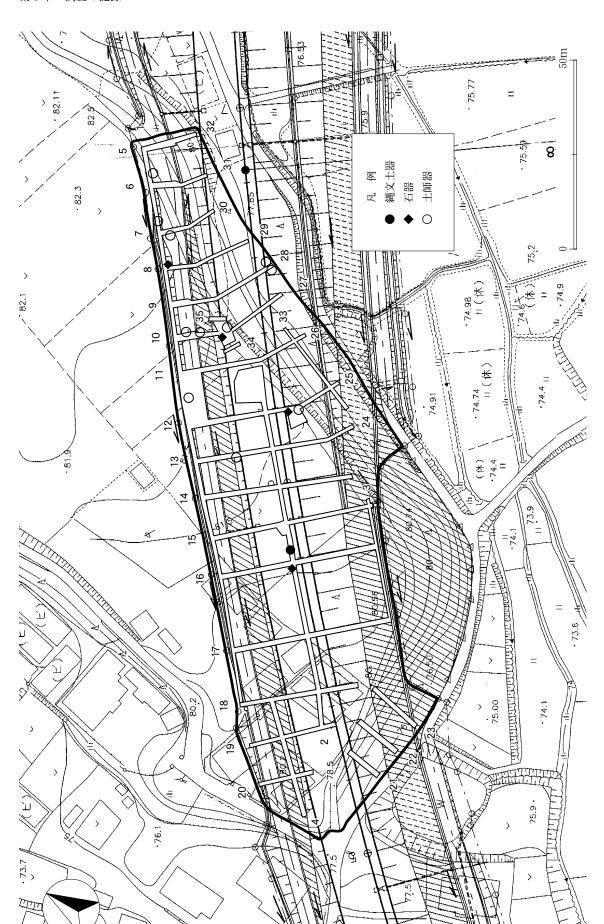
第62図 野崎遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



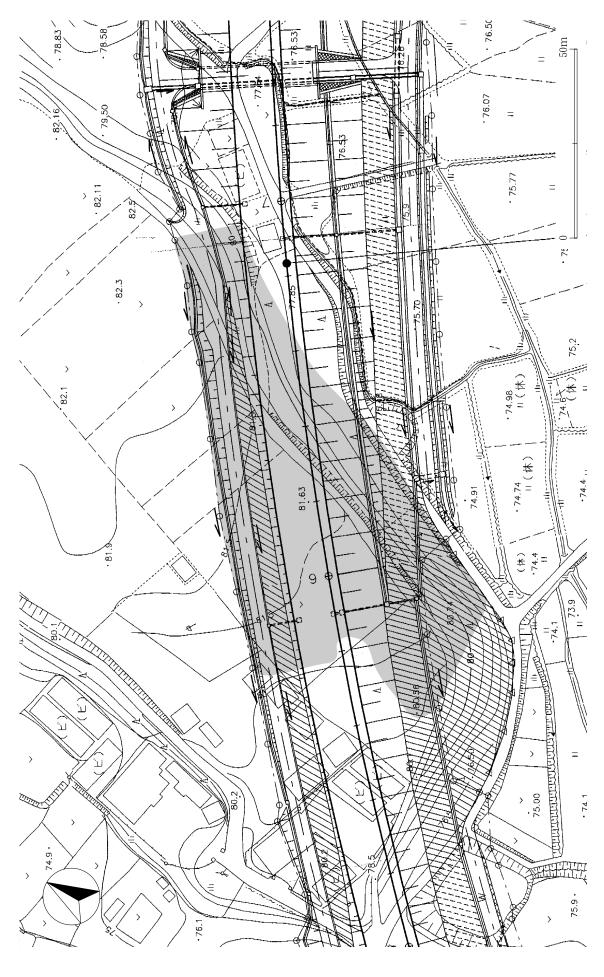
第63図 野崎遺跡基本層序図



第64図 野崎遺跡確認調査結果図(遺構検出地点)



第65図 野崎遺跡確認調査結果図(遺物検出地点)



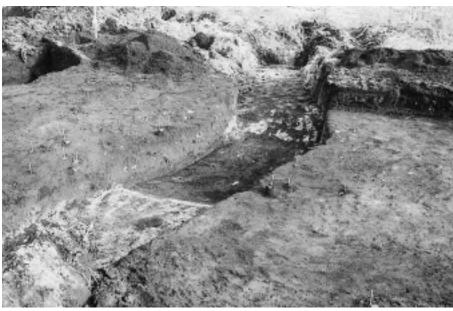
第66図 野崎遺跡要本発掘調査範囲図



野崎遺跡 第 1 トレンチ中央部 竪穴住居跡検出状況 (西から)



野崎遺跡 第27トレンチ 焼土遺構検出状況 (南から)



野崎遺跡 第10トレンチ東部 竪穴状遺構検出状況 (西から)

# (2) 地方道路交付金事業 根瀬尾去沢線

# ュール だったで 三ケ田館跡

1 遺跡所在地 鹿角市八幡平字浦田外

**2 確認調査期間** 平成16年11月8日~11月26日

**3 確認調査対象面積** 1,390㎡

**4 工事区域内遺跡面積** 1,200㎡

5 遺跡の立地と現況

a 立地

本遺跡はJR花輪線八幡平駅より南西約2.9kmに位置し、夜明島川右岸の台地上に構築された中世の館跡である。鹿角四十二館の一つとして周知の遺跡であり、本遺跡の北裾には現在の三ヶ田集落がある。遺跡の西下を夜明島川が北流しており、川岸は断崖となっている。「大館」と呼ばれる主郭の標高は約213mで、南側畑地との比高差は約20mである。今回の確認調査対象範囲は、館跡の北西端にあたり、西側に張り出した主郭の先端部とその南北両切岸、切岸下の帯郭状の南北2箇所の平坦面および南側平坦面のさらに南側にある土塁と、その南側に犬走り状に連なる平坦面である。

### b 現況

館跡はほとんどが山林である。確認調査対象区域は全て伐採されており、切り株及び枝葉が全域に 残存する。

### 6 確認調査の方法

城館の各部(郭、土塁等)は比較的良く保存され、現在の地形にそれらの形状が良くあらわれている。調査は、これらの地形を考慮してトレンチを設定し、トレンチ内に確認される遺構・遺物の記録、土層断面にあらわれる地形改変の把握に主眼をおいて行った。トレンチには、通し番号を付し、その掘削は重機、および一部重機が進入不可能な場所は人力によって行った。掘削後はトレンチ内遺構確認面および土層断面の精査を行った。検出遺構と出土遺物については、トータルステーションによる計測をもとに位置等を平面図上に記録し、土層断面についても同様の方法で断面図を記録した。また、これらとともに写真撮影による記録も行った。

実質調査面積は181㎡で、調査対象面積の約13%にあたる

### 7 確認調査の結果

#### a 層序

削り出しによる郭・土塁、沢の盛り立てによる平坦面の造作など、館の造成に伴う自然地形の改変 が調査区内全域で行われている。帯郭状の南側平坦面縁辺部の土塁からさらに南側に犬走り状に連な る平坦面に設定した第2トレンチ北東側の層位は、以下のとおりである。

I 層 表土層

Ⅱ層 黒褐色土 (10YR2/2)

Ⅲ層 褐色土(10YR4/6) +暗褐色土(10YR3/4)

IV層 暗褐色土 (10YR3/4)

V層 褐色土 (10YR4/6)

VI層 灰黄褐色土(10YR5/2) 地山

# b 検出遺構と出土遺物

調査区北東側に台地縁辺部を整地した平坦面がある。調査区内で標高が約213mと最も高く「大館」 と呼ばれる主郭の一部である。ここに設定した第6トレンチでは、長径30cm、短径20cmの柱穴様ピッ ト5基を検出した。その配置から柱穴列あるいは掘立柱建物跡の可能性がある。主郭の南北は急崖で あり、斜面を削りだした切岸であることを確認した。この切岸の南北には、それぞれ帯郭状の平坦面 があるが、北側の平坦面に設定した第3トレンチでは、南側(主郭側)から北側へ向かって、それぞ れ幅1 m・深さ1 m、幅1.5 m・深さ1 m、幅2 m・深さ2 mの空堀あるいは溝跡3 条を確認した。 これらは植林による撹乱が多いものの、断面「V」字形の薬研堀の形態を示す。今回の調査では、南 側(主郭側)の空堀が最新段階のもので、北側に向かって順次旧く、新旧関係を確認できた。したが って、この主郭西端においてはその変遷が3時期に及ぶ可能性がある。また、これらよりさらに南側 斜面上では幅40cm・深さ60cmの掘り込みが確認され、それらは柵列を構成する柱穴様ピットあるいは 溝跡の可能性がある。南側の帯郭状平坦面に設定した第1トレンチでは、全長20m・深さ2m以上の 空堀があり、さらにこれを埋め立てて遺構面が作られていることを確認した。埋土上位には暗褐色土 の堆積する整地層(Ⅲb層)があり、この層直下でいずれも直径1mの土坑と鉄片が出土した遺構1 基を検出した。これより下位に、主郭南側を切岸に削りだした時のシラス土を埋め込んだ再堆積層(Ⅲ c層)を挟んで、さらに黒〜暗褐色土堆積層(IV層)があり、古段階の整地層の可能性がある。この 平坦面の南側から南西方向に設定した第2トレンチでは、土塁とその南側に斜面を挟んで犬走り状に 連なる平坦面を確認した。土塁は削り出して造作されており、長さ14m・幅4mである。犬走り状の 平坦面は長さ15m・幅5mで、空堀と思われる掘り込みを確認した。これらの土塁と平坦面の比高差 は5mである。

遺物は、縄文時代前期の土器片、剥片石器、礫石器、中世陶磁器が出土した。縄文時代の遺物は、 第1トレンチ南西端と第2トレンチ中央~南側でまとまって出土しているが、城館の造成にともなっ て撹乱されたものである。

### 8 所見

# a 遺跡の種類

中世の城館である。遺跡自体は縄文時代前期にも利用されたことが出土遺物によって示されている。

### b 遺跡の範囲と工事区域

本発掘調査対象面積は、確認調査対象範囲から主郭西側の切岸部分と現県道に面する法面を除外した800㎡であるが、主郭南側の帯郭状平坦面については3面程度の遺構精査が必要である。したがって、それらを合計した面積は1,200㎡となる。またこの他に、遺跡南端部は、本調査前に城館造成前の旧地形を確認するためのトレンチ調査を行う必要がある。

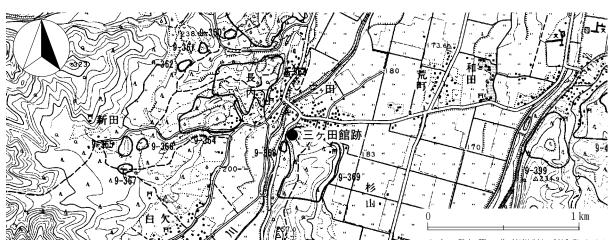
### c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

本調査では、西側に張り出した主郭先端部とその南北部分を範囲とした調査を行うことになる。今回の調査結果から、以下のような本調査が必要となる。

・主郭北側帯郭状の平坦面では、空堀あるいは溝が新旧関係をもって検出されることが予想される。 空堀あるいは溝の新旧によって示される郭の作り替えは、即ち、館跡の変遷時期とも関わるが、それ らを明らかにする調査が必要である。

・主郭南側帯郭状の平坦面では、造成による複数回の整地層の精査が必要である。さらに南側の土塁には、土塁に伴う柱穴列あるいは柵列などの検出の可能性もある。これらを館跡の変遷と関係づけて明らかにする調査が必要である。

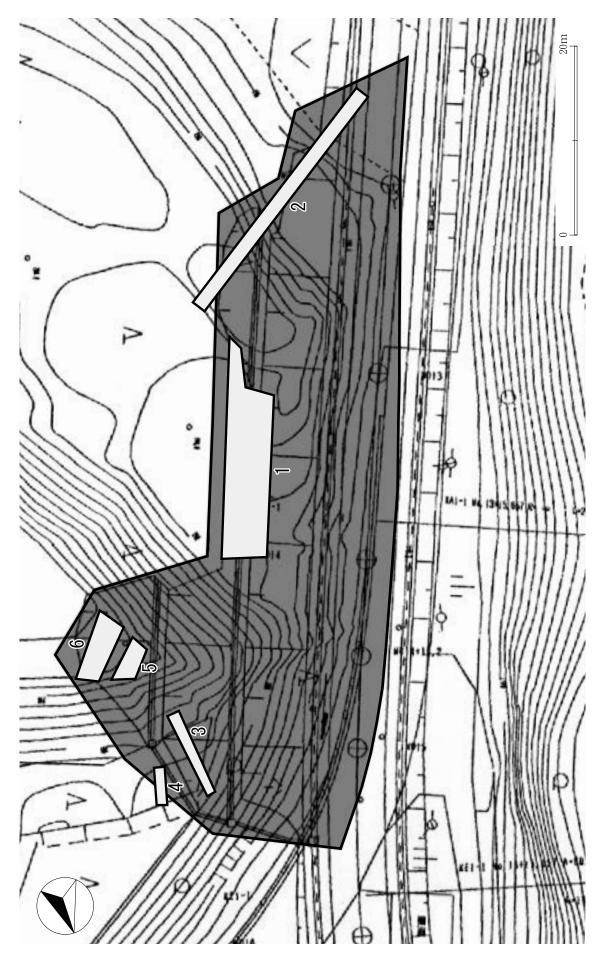
- ・主郭先端部では、柱穴列あるいは掘立柱建物跡の検出が予想される。調査区が狭小であるため、これらの遺構は調査区外に広がることが確実であるが、調査区外も含めて主郭全体の機能を見通しての調査が必要となる。
- ・出土遺物としては、縄文時代前期の土器片、剥片石器、礫石器、中世陶磁器などが予想される。縄 文時代の遺物は城館の造営に伴い撹乱された状態で出土するものと予想されるが、この評価のために は城館の調査を通して旧地形を復元的にとらえる調査が必要となろう。



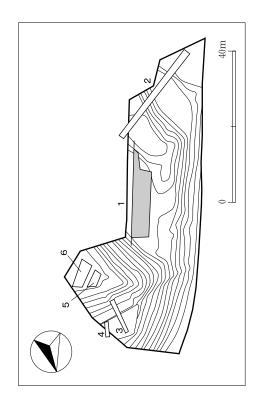
第67図 三ヶ田館跡位置図

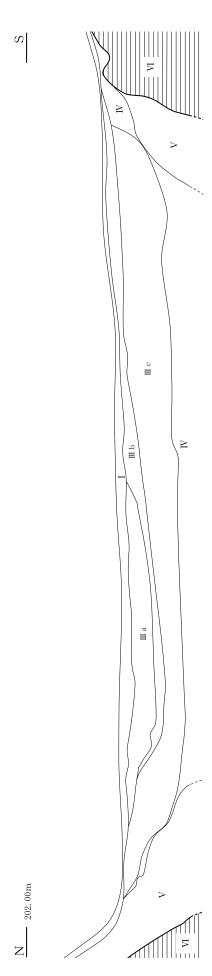


第68図 三ヶ田館跡現況図と確認調査範囲図



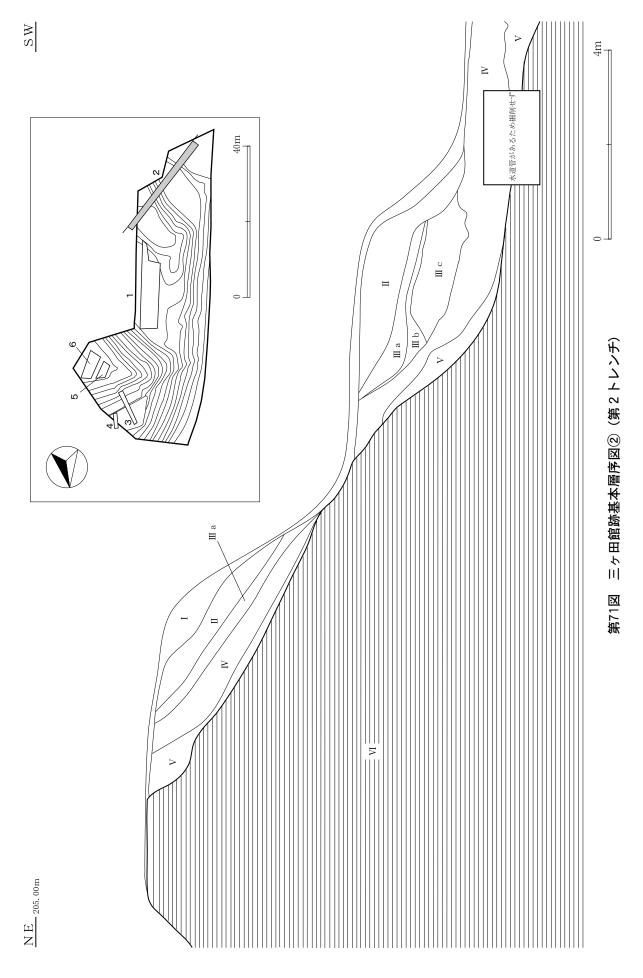
第69図 三ヶ田館跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



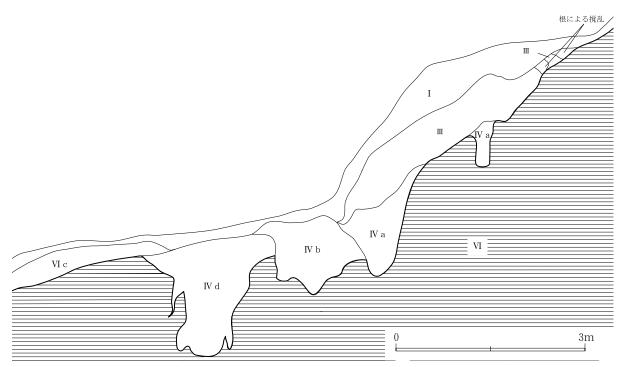


第70図 三ヶ田館跡基本層序図① (第1トレンチ)

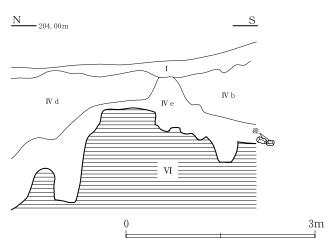
4m



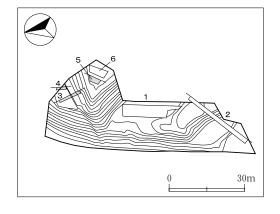
<u>N</u> 207.00m



第72図 三ヶ田館跡基本層序図③ (第3トレンチ)

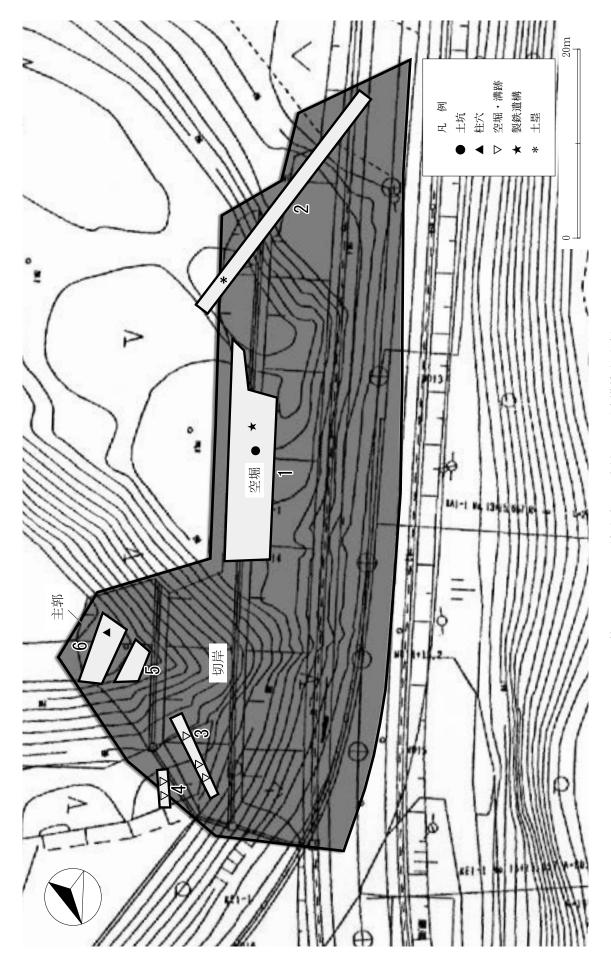


第73図 三ヶ田館跡基本層序図④ (第4トレンチ)

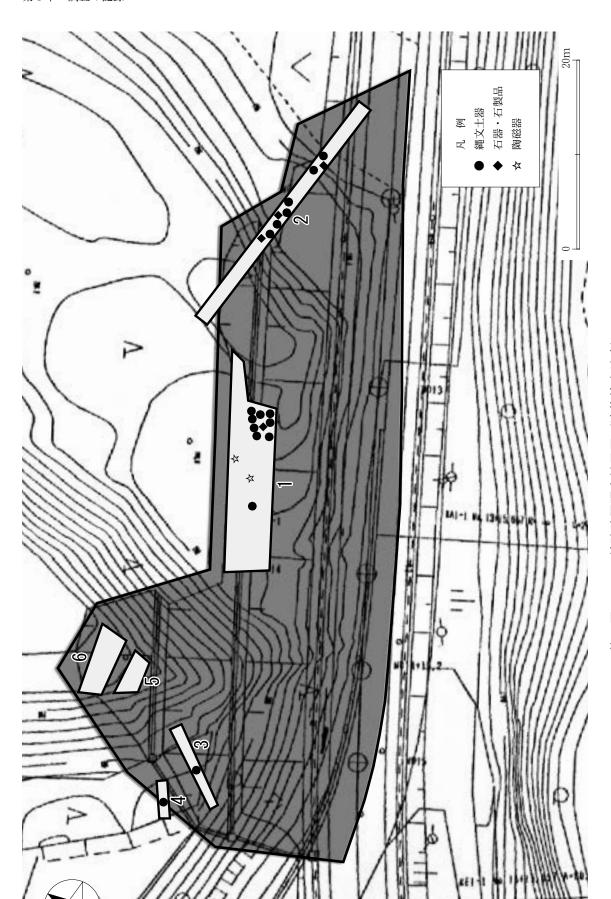


NE 213.00m SW

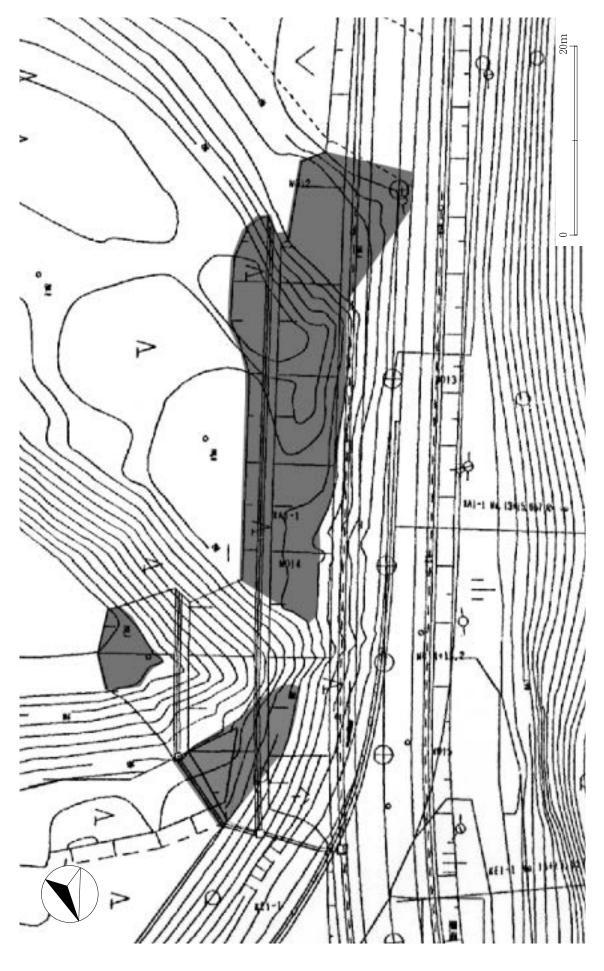
第74図 三ヶ田館跡基本層序図⑤ (第5トレンチ)



第75図 三ヶ田館跡確認調査結果図(遺構検出地点)



第76図 三ヶ田館跡確認調査結果図(遺物検出地点)



第77図 三ヶ田館跡要本発掘調査範囲図

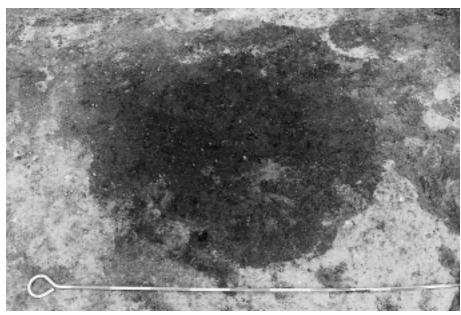
14 = 1 19,122 - 1921



三ヶ田館跡 遠景(南西から)



三ヶ田館跡 第1トレンチ 土層堆積状況 (南西から)



三ヶ田館跡 第1トレンチ 土坑検出状況(西から)

三ヶ田館跡 第2トレンチ 土層堆積状況 (南西から)



三ヶ田館跡 第3トレンチ 空堀検出状況 (南西から)



三ヶ田館跡 第 5 トレンチ 柱穴様ピット検出状況 (北から)

# (3) 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業

# 寺ヶ沢Ⅲ遺跡

1 遺跡所在地 由利郡西目町西目字寺ヶ沢69-27

**2 確認調査期間** 平成16年11月29日~12月10日

**3 確認調査対象面積** 7,500㎡

**4 工事区域内遺跡面積** 2,900㎡

5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡は、JR羽越本線西目駅から南西約3.3kmに位置し、西目川左岸の北西方向に舌状にのびる丘陵 先端部に立地している。丘陵の東斜面下に沿っては、町道田高7号線につながる農道が走っており、 この舗装された町道から砂利道となる農道を約300m南に進むと遺跡に至る。遺跡の立地する丘陵頂 部は馬の背状を呈しており、その標高は53mで、丘陵東側下方の水田面との比高差は23mである

### b 現況

広葉樹や針葉樹などが生える山林であったが、調査区域の樹木は伐採されており、切り株や枝葉が 全域に残されている。

### 6 確認調査の方法

調査区の中心ラインとなる北西に張り出した丘陵の稜線に幅2m・長さ任意のトレンチを2本と、これに交差するように12本の計14本を設定し、重機で掘削した。その後、トレンチ内の壁面と地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。また、必要に応じてトレンチを拡張して遺構の確認調査を行った。確認調査における実質調査面積は600㎡で、調査対象面積の8.0%にあたる

調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び主な土層図の作成と写真記録によった。

### 7 確認調査の結果

### a 層序

遺跡の基本層序は、各トレンチの土層観察から以下のとおりである。

第 I 層 暗褐色土 (10 Y R 3/3) 表土 層厚 3~40cm

第Ⅱ層 褐色土 (10YR4/4) 遺物包含層 層厚 5~43cm

第Ⅲ層 褐色砂質土(10YR4/4) 地山 遺構確認面

調査区中央部付近と北部では、第Ⅰ・Ⅱ層が認められない部分がある。遺物包含層は第Ⅱ層で、遺構確認面は第Ⅱ層中及び第Ⅲ層上面である。

# b 検出遺構と出土遺物

遺構は、調査区中央部付近から南側にかけて土坑8基、南端の柱穴1基、南東中央部の溝跡1条である。これらのうち全体プランが把握できたのは、第1トレンチ北端部で検出した土坑1基のみで、平面形は楕円形で、長軸1.0m、短軸0.9mである。その他の土坑は径1m前後と思われる。また、柱穴は推定で径20cm、トレンチ内を東西にのびる溝跡の幅は34~42cmである

出土した遺物は、縄文時代前期・後期の土器、石器などである。その出土量は中コンテナ(53cm×34cm×10cm規格)で1箱ほどである。

# 8 所見

# a 遺跡の種類

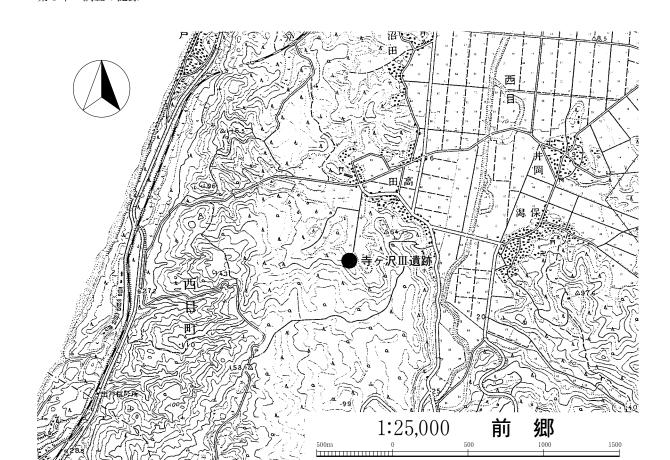
縄文時代前期もしくは後期における小規模な集落跡と考えられる。

## b 遺跡の範囲と工事区域

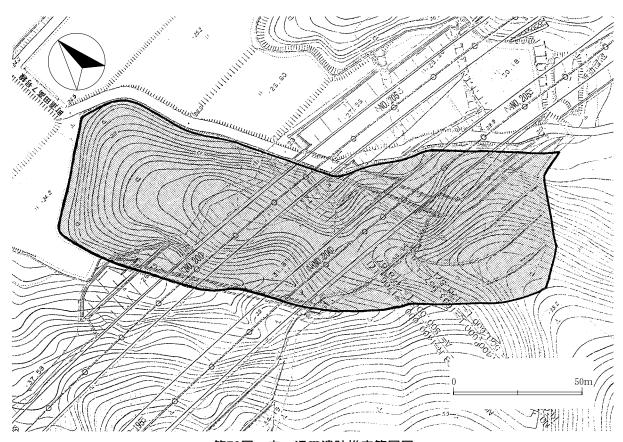
工事区域の遺跡範囲は、調査区中央部よりやや北に東西方向へ設定した第10トレンチ以南の2,900㎡である。なお、第10トレンチ以北で遺構は検出されず、遺物も地表面で土器、剥片各1点を採取したにとどまったため、同以北は発掘調査の対象範囲から除外した。

# c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

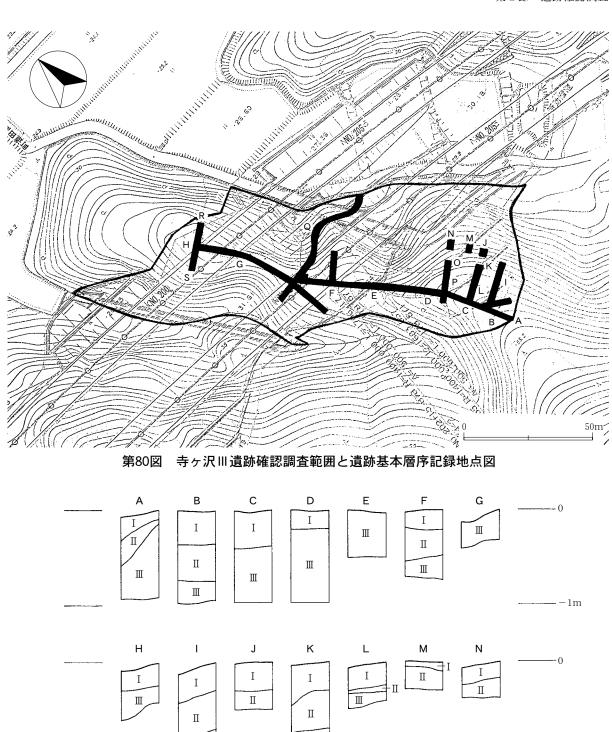
遺構は縄文時代の竪穴住居跡、土坑などが検出され、遺物は縄文時代前期・後期の土器や石器が出 土するものと予想される。

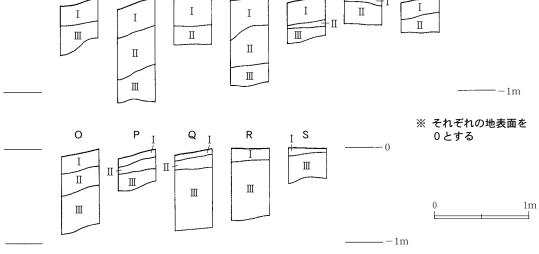


第78図 寺ヶ沢Ⅲ遺跡位置図

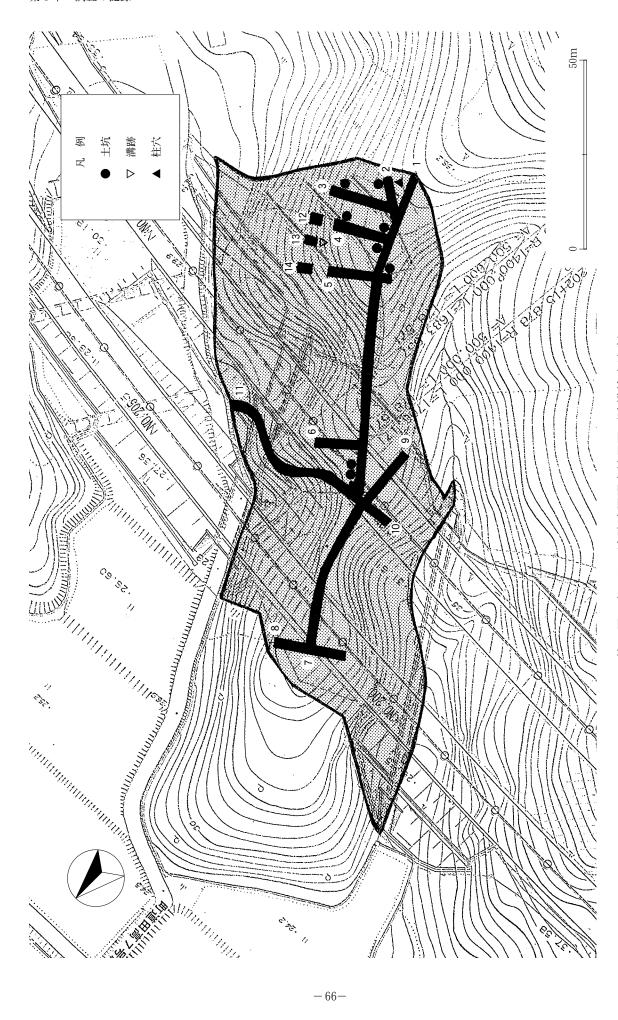


第79図 寺ヶ沢Ⅲ遺跡推定範囲図

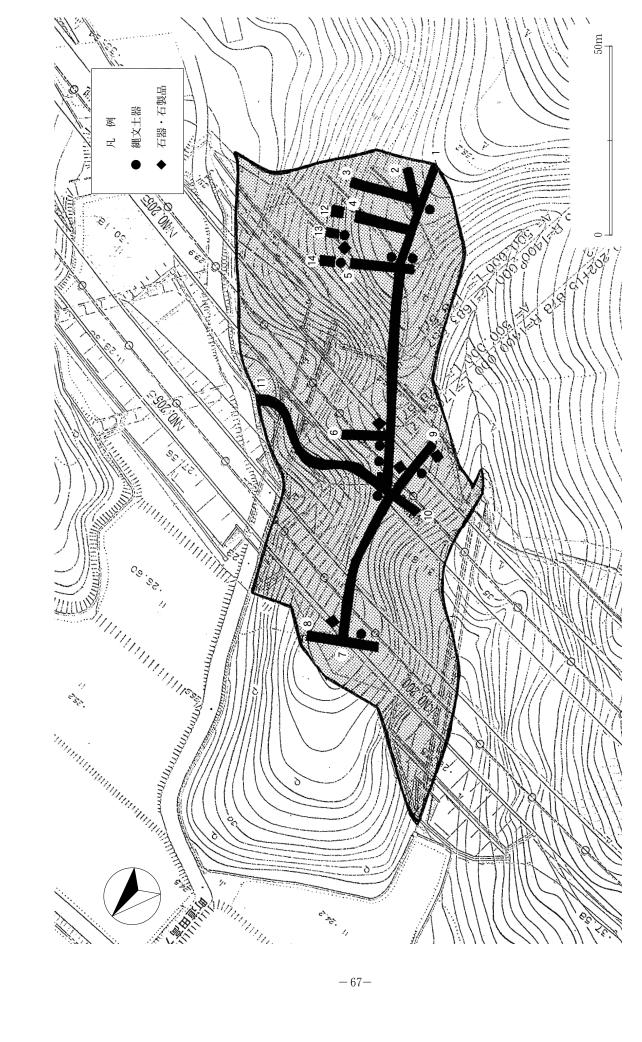




第81図 寺ヶ沢Ⅲ遺跡基本層序図



寺ヶ沢皿遺跡確認調査結果図(遺構検出地点) 第82図



寺ヶ沢Ⅲ遺跡確認調査結果図(遺物検出地点) 第83図



第84図 寺ヶ沢田遺跡要本発掘調査範囲図



寺ヶ沢Ⅲ遺跡 遠景(東から)



寺ヶ沢Ⅲ遺跡 第1トレンチ 土坑検出状況(西から)



寺ヶ沢Ⅲ遺跡 第4トレンチ 遺物出土状況(北から)

# (4) (仮称)秋田中央警察署庁舎建築工事

古川堀反町遺跡

1 遺跡所在地 秋田市千秋明徳町1番9号

**2 確認調査期間** 平成16年10月27日~11月25日

**3 確認調査対象面積** 2,280㎡

**4 工事区域内遺跡面積** 1,690㎡

5 遺跡の立地と現況

a 立地

古川堀反町遺跡は秋田市街地の中心、現在は千秋公園として知られる近世城郭久保田城跡の外堀である穴門の堀に西接する。1602 (慶長7)年、常陸から秋田へ入部した佐竹義宣公は翌年久保田城の築城に着手し、以後数十年間をかけ、「総構え」として久保田城を中心とする城下町を整備していく。その際に旭川を西方へ掘り替えて内町と外町の境界とし、その旧河道を利用して外堀とした。この由来により穴門の堀西辺のこの地は「古川堀反町」(市制下の旧町名としては古川堀端町)と呼ばれることになった。西隣の土手長町上丁は堀川である旭川の掘削土砂を盛土したことに由来しており、両町とも城下町整備にともなう新・旧の旭川の河川改修に由来する地名となっている。

#### b 現況

今回、秋田警察署の建て替えに伴い本遺跡の確認調査を実施することになったが、秋田警察署は敷地の東西が古川堀端町から土手長町の通りまでおよび、市街地中心部では数少ない広大な敷地を有する。寛文年間の城下絵図によると両町で8軒程度の屋敷地が関わっており、幕末には家老の小野岡氏の邸宅を含めた5軒程度が関係する。

秋田警察署は敷地西側の庁舎棟で業務を継続するため、今回の確認調査対象範囲となったのは敷地の東半部、古川堀端町通りに面する道場棟・別館棟・倉庫棟を解体した跡地および駐車場用地として使用されていた部分である。

各棟は解体され更地となっていたが、それぞれ建物基礎(地中梁)を残したまま、その内部を調査 した。また駐車場用地となっていた部分にも、明治期以降の建造物に伴う基礎等が部分的に残存して いた。

#### 6 確認調査の方法

確認調査は、あらかじめ調査箇所について原因者側に明示し、調査の障害となるアスファルト・砕石・建物床・明治期以降の整地層などを重機で除去したうえでトレンチ調査を実施した。文化財保護室が実施した試掘調査で、最も旧い時期(17世紀前半代)の遺構面が深さ1.5mほどで検出されていたため、調査トレンチ幅は2mを基本とした。また建物基礎内などにおいては、掘削深度に合わせて1~2m幅とし、安全確保に努めた。実調査面積は225㎡で、調査対象面積の約9.9%である。トレンチを掘削し、遺構と判断される土層の変化が認められた部分についてはその種別を確認するように努め、遺構配置略図を作成し、写真撮影を実施して記録した。各宅地内では江戸時代各期を通じて複数回の建て替え、宅地の併合なども絵図から確認できるため、各地点における生活(文化)面の面数の把握にも努め、検出した遺構は帰属する生活面ごとに記録した。また出土した遺物にはトレンチ名と出土地点を付し、位置を記録した。

# 7 確認調査の結果

#### a 層序

第2トレンチと第3トレンチ交点付近の層序は以下の通りである。

- 0 層 I 層の上面に敷設された工作物。上方よりアスファルト 5 cm、コンクリート 5 ~ 10 cm、砕石 20~25 cm。
- I 層 明黄褐色砂礫層 (10YR6/6。風化礫を含む砂質粘土層、硬く締まる。明治期以降の整地層、 層厚 5 ~60cm。
- Ⅱ層 黒褐色砂~シルト (7.5YR3/2。炭中粒を中量、焼土小粒を少量含む、よく締まる。幕末期 整地面の下部か、層厚10~30cm
- Ⅲ層 褐色砂層 (7.5YR4/3)。 炭大粒を中量含む、よく締まる。 細礫~粗砂がラミナ状に入る整地層、層厚10cm。
- IV層 暗褐色砂~シルト (7.5YR3/3)。 炭中粒を中量含む、よく締まる。 層厚10~20cm
- V層 黒褐色砂〜シルト (7.5YR3/1)。 炭中粒を多量、VI層の大粒を多量含む、よく締まる。 層厚 10~15cm
- VI層 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4) と灰褐色シルト〜粘土 (7.5YR4/2) が互層となる版築状の整地 面、層厚10~20cm
- Ⅷ層 褐灰色砂~シルト (7.5YR4/1)。炭中粒を少量、植物片を少量含む。層厚10℃
- ™層 褐灰色砂 (7.5YR4/1)。 炭中粒を少量含む。 IX層と併せ整地面を構成するが、部分的な堆積である。 洪水堆積物か、層厚 0 ~15cm。
- X層 褐灰色粘土 (10YR5/1)。 炭中粒を中量、斑状に黒色シルトを含む。 層厚 5 ~20cm
- X層 灰黄褐色粘土~シルト (10YR4/2)。炭中粒を少量。中粒砂を斑状に含む。層厚20~30cm
- XI層 灰色砂~シルト (5Y4/1)。植物片を少量含む。層厚20~30cm
- XII層 灰色粘土 (5Y4/1)。植物片を少量含む。地山面

明治時代以降の I 層により上面を削平された遺構が遺存している、本来的には I 層中~ II 層上面に幕末期の生活面が存在すると考えられる。以下 III 層・VII 層・VII 層・XI 層・XI 層がそれぞれ一定の時間幅を有したと思われる生活面である。 XI 層以下は旭川の河川堆積による自然堆積層であり、本調査区における地山土である。 XII 層以下は発達の悪い泥炭(所謂「スクモ」)層および灰色~青灰色粘土層が互層となるようである。

X層は河川氾濫原を初めに埋め立てた際の整地面と思われる。VI層は最も堅固に突き固められた整地層で版築状を呈し、6.5尺間の礎石を有する柱穴列を検出した。砂目積み技法を用いた唐津焼皿が上面で出土しており、17世紀前半代の生活面と考えられる。

#### b 検出遺構と出土遺物

別館棟の基礎内側部分(No.  $4 \sim 7$  グリッド)では、基礎より 3 m掘り下げたが、X 層(地山土)まで削平がおよんでいた。基礎(地中梁)上面から 2 mの深さまで砂が充填されており、基礎を支える杭を打設する際に地山土まで削平された模様である。よってこの部分においては、遺跡は失われている。

別館棟部分を除く調査区(駐車場部分・倉庫棟部分・道場棟部分)では、上部の整地面は一部撹乱

されているものの、遺構・遺物ともに良好に遺存していた。江戸時代の柱穴(礎石据え穴を含む)・ 土坑・溝跡を各所に検出した。

No.1トレンチ西側で町境(古川堀反町と土手長町上丁)の排水溝を検出した。またNo.3トレンチ中央付近で古川堀反町側の宅地境の排水溝を検出した。No.3トレンチ南半および8~10グリッドの堆積土はほぼ対応し、明確にNo.2 およびNo.11トレンチの堆積土と識別できることから、No.10グリッドとNo.11トレンチの間にも宅地境が存在することが予想される。つまり今回の調査区内では、最大で2町にまたがった4軒におよぶ武家屋敷が関係している可能性が高い。

江戸時代の陶磁器・木製品についても各所から出土し、特に陶磁器類では「桃山茶陶」と呼ばれる「織部」・「志野」などが出土しており、佐竹氏に随伴して入部した家臣が常陸から持ち込んだものと考えられる。

#### 8 所見

#### a 遺跡の種類

江戸時代初期~幕末期まで継続して営まれた武家屋敷跡である。

#### b 遺跡の範囲と工事区域

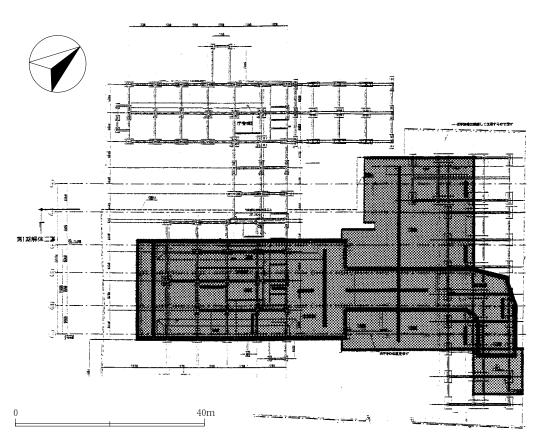
今回の確認調査の調査区内全域が遺跡であったと考えられるが、別館棟部分については前述したとおり遺跡は失われている。それ以外の駐車場部分・倉庫棟部分・道場棟部分が工事区域内の遺跡範囲となる。また明治時代以降、比較的削平を免れた部分では5面、建物基礎などにより撹乱を受けた部分でも基礎の下に3面程度の生活面が遺存していることを確認できたため、実際の調査面積は3倍以上となる。

## c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

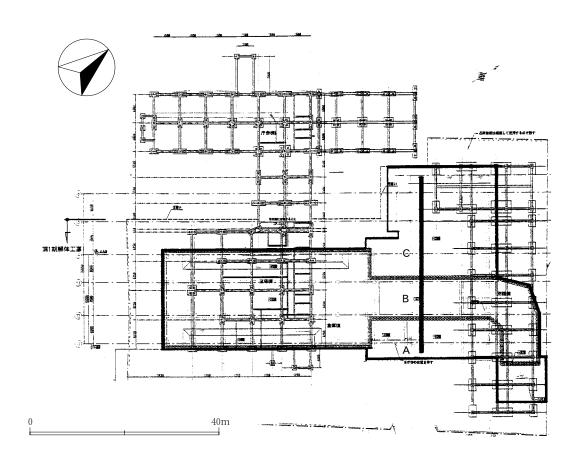
本調査時には多数の柱穴の検出が予想され、その多くは礎石建物跡および掘立柱建物跡を構成すると考えられる。また井戸・ごみ捨て穴などの大規模かつ深さのある遺構も一定数検出されると思われる。遺物は桃山茶陶を初めとする高級茶器等のほか、初期伊万里・初期色絵などの高級陶磁器が多数出土することが予想される。また旭川の旧河道氾濫原に立地することから地下水位が高く、漆器類を初めとする木製遺物も多量に出土することが予想される。



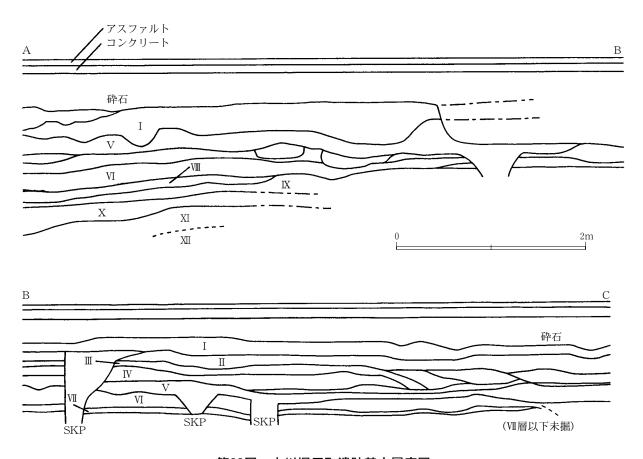
第85図 古川堀反町遺跡位置図



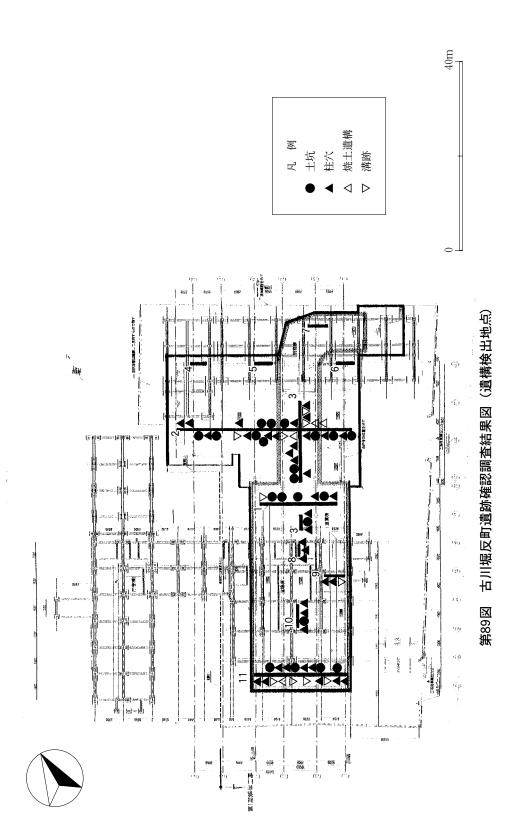
第86図 古川堀反町遺跡推定範囲図

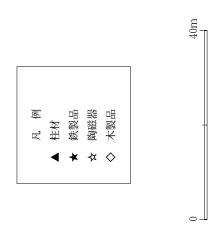


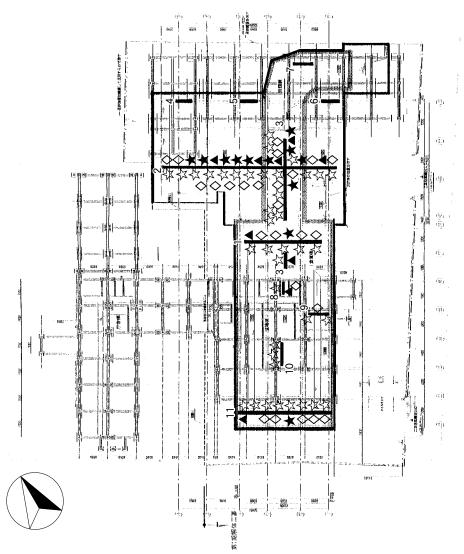
第87図 古川堀反町遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



第88図 古川堀反町遺跡基本層序図

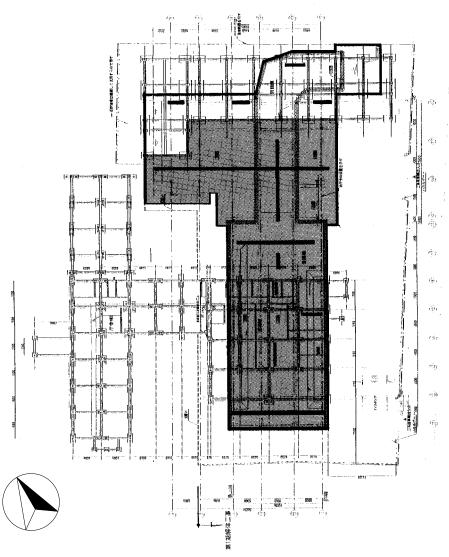






第90図 古川堀反町遺跡確認調査結果図(遺物検出地点)

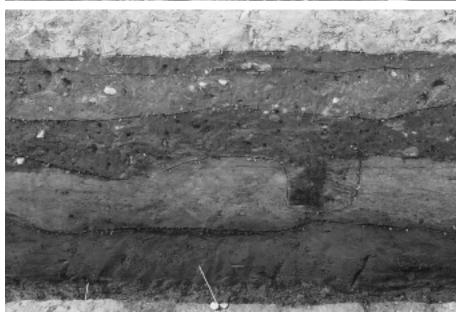




第91図 古川堀反町遺跡要本発掘調査範囲図



古川堀反町遺跡 作業状況(南東から)



古川堀反町遺跡 第2トレンチ 土層堆積状況 複数回にわたる生活面を 検出した(北東から)



古川堀反町遺跡 第2トレンチ 遺構検出状況 (南東から)



古川堀反町遺跡 第2トレンチ 大型の土坑より木製品 多数出土状況(北から)



古川堀反町遺跡 第3トレンチ 礎石建物検出状況 (北東から)



古川堀反町遺跡 第3トレンチ 後世の建物基礎下部に 遺存する遺構群 (南東から)

# (5) 国道105号国道道路改築事業

# 家ノ前遺跡

1 遺跡所在地 由利郡大内町米坂字家ノ前87-3外

**2 確認調査期間** 平成16年12月8日~12月16日

**3 確認調査対象面積** 2,600㎡

**4 工事区域内遺跡面積** 1,800 m<sup>2</sup>

5 遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡の周辺では、芋川の西〜北に広がる北由利丘陵地から芋川低地に、小さな尾根が舌状に多く延びている。家ノ前遺跡は、北から南に突き出た尾根状の狭小な平坦面にある。尾根の三方は急斜面となっており、平坦面は長さ(南北)約100m、幅(東西)20~70mで、北側が狭くなっている。この平坦面全域が遺跡範囲と考えられ、調査区はそのうちの北部にあたる。

#### b 現況

調査区の北東斜面が杉林、それ以外は広葉樹林で北西側の半分が伐採されている。伐採された所には、径10~20cmの雑木が数箇所に積み上げられていた。調査区北側の尾根部から北西斜面裾部にかけて、伐採木運搬に伴う重機道が造成されている。

#### 6 確認調査の方法

調査は路線に設けられた20m間隔の中心杭(No.5)を基準に、尾根線に沿った方向に2本、それに直行する東西方向に3本、北東・南西斜面に各2本ずつと、幅1mのトレンチ9本を設定した。トレンチは人力で掘り下げ、確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチ内で出土した遺物については、位置・層位を記録して取り上げ、検出した遺構プランは実測・写真撮影を行った。また、尾根部平坦面の第1トレンチにおいて基本層位を記録した。

確認調査における試掘面積は113㎡で、調査対象面積の約4.3%に相当する

#### 7 確認調査の結果

# a 層序

第1トレンチ南側の層序は次の通りである。

第 I 層 暗オリーブ褐色土 (2.5 Y R 3/3) 層厚10~12cm

第Ⅱ層 暗オリーブ褐色土 (2.5 Y R 3/3) 遺物包含層 層厚10~15cm

第Ⅲ層 黄褐色土 (2.5 Y R 5/4) 遺物包含層 漸移層 層厚15~23cm

第IV層 黄褐色土 (2.5 Y R 5/6) 地山上位層 層厚20~40cm

第V層 明黄褐色土 (10YR6/8) 地山

尾根部の平坦面では、第 I ~Ⅲ層の厚さは比較的安定しているが、斜面の堆積層は相対的に厚みが増している。特に第 7 トレンチ東端の層は、地山面までの層厚が130cmあり、第 I 層の下が褐色土・黄褐色土・暗褐色土・漸移層に分層できた。基本土層のうち第 II ・Ⅲ層が遺物包含層である。第 II 層は地山上位層に色調が類似しており、一般的な平坦地における暗褐色土中の遺物包含状況とは異なる。遺物包含層は、一部の重機による掘削部を除いて調査区全域に残存する。

# b 検出遺構と出土遺物

遺構は、縄文時代前期の竪穴住居跡2軒、土坑3基、焼土遺構1基、柱穴様ピット1基が検出された。これらの遺構は調査区の平坦面から見つかっている。このうち、第2トレンチの竪穴住居跡は径8m程の規模があり、黒褐色土を主体にした覆土である。第3トレンチの竪穴住居跡には、長さ15~25cmの礫を配置した炉が検出された。焼土は検出できなかったが、内側に少量の炭化物粒が確認できた。遺物は、縄文時代前期の深鉢の砕片・石篦・石鏃・剥片等が出土した。縄文土器と剥片石器が多く見られ、平坦面及び緩斜面の第Ⅱ・Ⅲ層から出土した。遺物は径1~3mの小範囲にまとまる傾向がある。

# 8 所見

# a 遺跡の種類

縄文時代前期を主体とする集落跡と考えられる。

#### b 遺跡の範囲と工事区域

遺跡は丘陵地の平坦面に中心をもつと考えられる。工事区域内で発掘調査が必要な範囲は、丘陵地 北西端尾根部の平坦面と比較的緩やかな斜面部を合わせた計1,800㎡である。工事区域内の北東端及び 南西端部分は急斜面であり、遺構の存在する可能性はないと判断し、調査範囲から除外した。

# c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、縄文時代前期の竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、柱穴様ピットなどが検出されると考えられる。 平坦部に近い南西側では主に竪穴住居跡が、また、全域から土坑が検出されると予想される。斜面に 遺構の存在する可能性は低い。縄文時代前期の土器及び石器は、調査区域全域から小さなまとまりと なって出土するものと考えられる。

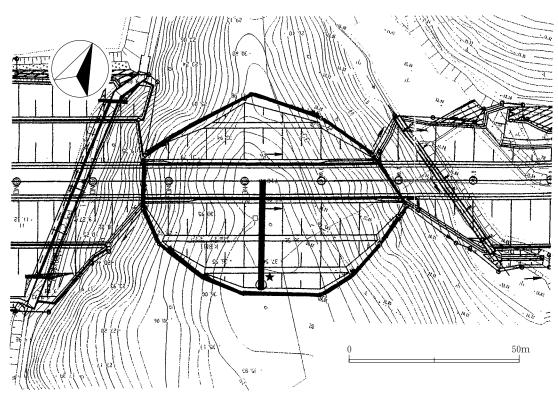


第92図 家ノ前遺跡位置図

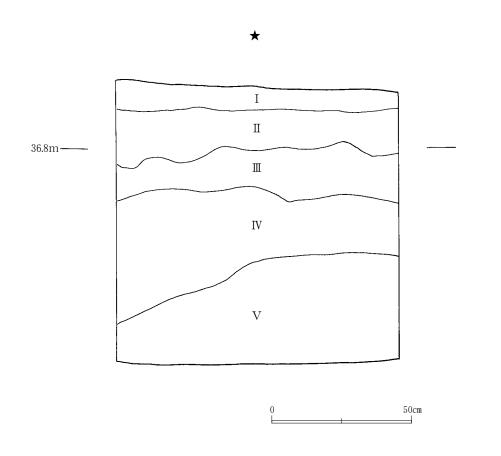
1500



第93図 家ノ前遺跡推定範囲図



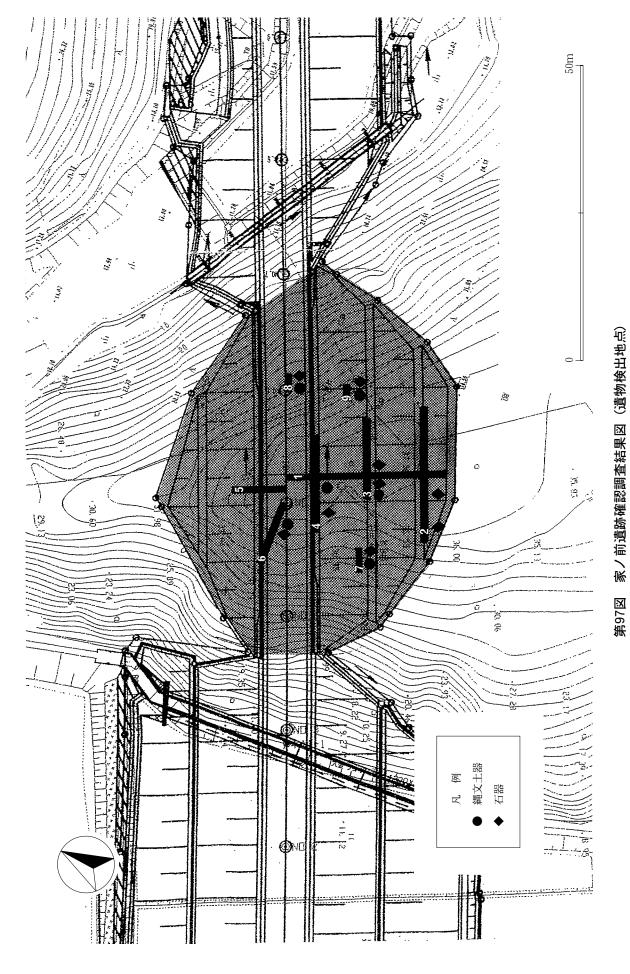
第94図 家ノ前遺跡確認調査範囲と遺跡基本層序記録地点図



第95図 家ノ前遺跡基本層序図

第96図 家ノ前遺跡確認調査結果図 (遺構検出地点)

**DND** 



-85-

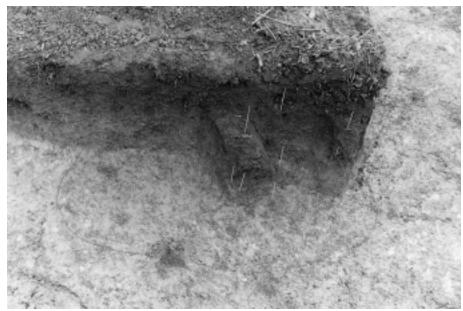
第98図 家ノ前遺跡要本発掘調査範囲図



家ノ前遺跡 遠景(西から)



家ノ前遺跡 第3トレンチ 竪穴住居跡検出状況 (南から)



家ノ前遺跡 第3トレンチ 土坑・遺物検出状況 (北西から)

# 秋田県文化財調査報告書第401集 遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行 平成17年3月

編 集 秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802

秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地

電話(0187)69-3331 FAX(0187)69-3330

発 行 秋田県教育委員会

〒010-8580

秋田市山王3丁目1番1号

電話 (018) 860 - 5193

印 刷 株式会社 県北新聞